明治四十一年十一月二十日發行

（明治二十一年本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十八號

明治廿六年四月四日第三種郵便物認可
每月一回二十日發行
内務省許可明治三十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百貳拾八號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

質疑

雜報

大日本婦人衛生會記事

大日本婦人衛生會

十二月例會通知

來る十二月五日（第一土曜日）午後一時半より神田區一ツ橋通り女子職業學校內に於て例會を開き左の講話有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

一衛生瑣談　　醫學士　內野仙一君

一演題未定　　醫學博士　金杉英五郎君

明治四十一年十一月

私立大日本婦人衛生會

◉會　告◉

●前金切れにて會費未納の方は此際何卒至急御送金下され度御依頼申上げ候

振替貯金口座　一〇六〇〇番

●本年七月の本誌には會員各位の御便宜を謀り振替拂込用紙を添へ置候

明治四十一年十一月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆我等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相計て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは卽ち喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を慾かざるもの、如くまことに惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話などを乞ひ互に相研究し尙之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡す所あらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ兼て社會全般の衛生を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の紹介を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續細則に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨を本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け議記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時補名左員の作●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　本會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く但し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め開演會を開くことあるべし●第十七條　例會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして[illegible]講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子に傍聽を許す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其會員は支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は每會の度其狀況を本會に報告すべし●第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し會員に頒附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を新册に記載し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと兼も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送設として別に返信料を添へらるべし（郵券二錢封入）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麹町區富士見町郵便取扱所宛）に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屆く會費を怪從するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

総裁　東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　淺尾作子

幹事（いろは順）　鳩山春子

同　羽田三緒子

同　岡田德子

同　高木かう子

同　山本多秘子

同　松平芳子

同　三浦敬子

評議員　石川貞子

同　岩下ゆか子

同　濱田捨子

同　長谷川仲子

同　仁禮壽賀子

同　西升子

同　穂積歌子

同　土肥多越子

同　緒方悦子

同　岡山とし子

同　小川孝子

同　男爵夫人　加藤給子

同　片山紀子

同　吉武輝枝子

同　丹波貞子

同　高橋孝子

同　田村きよ子

同　男爵夫人　南部限子

同　中濱芳子

評議員　子爵夫人　山口一貞子

同　松井正子

同　岸澄子

同　三宅藤子

同　宮本樂子

同　宮下咲子

◎支會　新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　理學博士　ドクトル　醫學博士　ドクトル　醫學博士　理學博士　赤十字社内科主任　醫學士　醫學士　醫學士　男爵　醫學博士　法學博士　東京　醫學博士　新潟　小兒科　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　步兵中佐　醫學博士　醫學博士

入澤達吉君　飯島魁君　伊澤信平君　色川閑士君　伊東祐彦君　飯塚挺造君　伊藤隼三君　石川千代松君　岩井禎造君　石ぇ久君　舞瀬雄一君　石原喜久太郎君　濱尾新君　濱山玄達君　庭山和大君　萩原姻四郎君　芳賀榮次郎君　長谷川泰君　長谷川一諒君　小原楨之君　岡田榮吉君　林春雄君　佐藤達次郎君　緒方正規君　堀内文次郎君　土肥慶藏君　岡田和一郎君

醫學博士　醫學士　醫學博士　一等藥劑官　醫學士　醫學士　男爵　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　法學博士　醫學博士　新潟　男爵　醫學士　醫學士　養生園長　藥學博士　醫學士　藥學博士　醫學士　醫學博士　醫學士　二等軍醫正　醫學士　三等軍醫正　帝國教育會長　理學博士　醫學博士　男爵

大澤謙二君　大西秀治君　大澤信太郎君　恩田重信君　若杉喜三郎君　渡邊房吉君　加藤弘之君　加藤照麿君　賀古鶴所君　河本重次郎君　片山國嘉君　川上雅居君　櫻田伯一郎君　金杉英五郎君　笠原光興君　唐澤光德君　河野衛君　高橋順太郎君　高山紀齋君　高木兼寛君　高木豐三君　田代義德君　田代亮助君　高崎正風君　竹中成憲君　高田耕安君　高橋辰五郎君　丹波敬三君　高板貞而君　田原良純君　山村光臣君　久保猪之吉君　米山彦郎君　星野葆光君　宮本叔君　横井忠國君　辻新次君　坪井正五郎君　長與稱吉君　南部甕男君

醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　海軍中佐　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　岡山　衛生試験所技手　ドクトル　ドクトル　醫學校長　廣島　醫學士　東京　男爵　大學名譽教授　醫學士　醫學士　醫學士　子爵　前軍醫監　ドクトル　高崎醫會長　產科婦人科　ドクトル　醫學博士　醫學士　醫學博士　ドクトル　醫學博士　醫學博士　醫學士　ドクトル

長井長義君　遠山椿吉君　中濱東一郎君　黒田玄通君　栗本庸勝君　小笠原長生君　村松秘三君　隈川宗雄君　栗本東明君　山山鐵藏君　山田弘倫君　山根正次君　山川吞二君　丸山長四郎君　松山陽太郎君　小此木信六郎君　小西信八君　小泉質君　古川榮君　布施正斷君　後藤新平君　エ、ベルツ君　甲野棐君　寺田勇吉君　寺山牧作君　寺山機尾君　秋元興朝君　足立寛君　富士川游君　土谷全次君　水原漸君　久保川誠曉君　佐々木政吉君　淺川決君　朝倉文三君　朝山彦六君　吾妻勝剛君　佐藤三吉君　櫻井郁二郎君　佐伯理一郎君

醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　小兒科專門　理學博士　醫學博士　醫學博士　醫學博士　伯爵　醫學博士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士　醫學博士　醫學博士　醫學士　醫學士　醫學博士　ミス　ミス　ミセス　ドクトル　醫學士　醫學士　醫學博士　ドクトル　ドクトル　醫學士

榊順次郎君　榊保三郎君　佐藤得齋君　櫻井恒次郎君　桐淵鋭次君　北村構造君　北島多一君　北川乙治郎君　木下正中君　北島小太郎君　北里柴三郎君　三浦守治君　三浦謹之助君　宮本仲君　我作佳吉君　三島通良君　三宅秀君　三輪信太郎君　土方久元君　島村俊一君　弘田長君　日高昂君　須田卓附君　澁川德君　木村德衛君　森林太郎君　笹川三男三君　波多野悟君　奥秀三君　リッテル　ヒユース　コーツ　菊池新一君　橋本左武郎君　島居作祥君　土田卯三郎君　佐藤運雄君　内山信光君　澤崎寛創君

第一圖



手術前



手術後



手術前



手術後

第二圖



手術前



手術後



手術前模型



手術後模型

講演

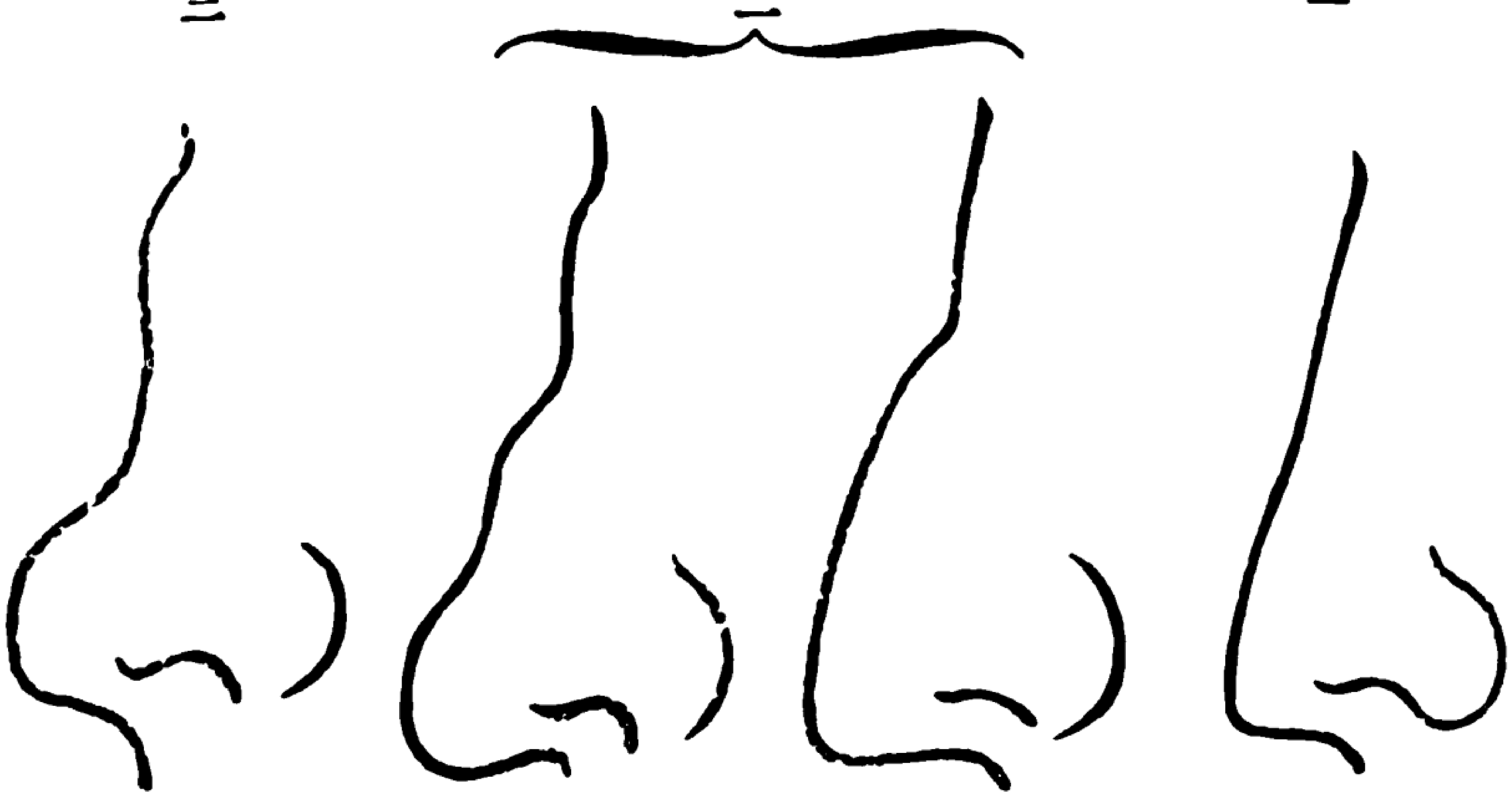
所謂整鼻術に就て

醫學博士　岡田和一郎君講演

殿下竝に會員諸君、私は本日はちと衛生問題とは關係がないと云ふお叱りを蒙るかも知れませぬけれども、近頃世の中で整鼻術と云ふことが大變はやつて來まして、殊に私の教室から、私の指導の下で門下生二三の者が大分研究して、不都合な鼻を都合の好い鼻にし醜い鼻を美い鼻にすると云ふことを始めました爲めに、世間でも非常に評判が宜く、それで新聞にも度々書かれ、人の經驗を聞傳へて態々遠方から東京まで來て鼻を高くすると云ふことが非常な流行になつて居ります。其故に此の整鼻術といふものは如何なる程度までに出來るか、或はどう云ふ風にするかと云ふことを皆様方の御耳に達して置くのは幾らか世の中の流行に伴ふて行かれる次第で、多少御參考にならうと思つて、今日は此の問題を掲げて御清聽を煩はすことに致した譯でございます。

整鼻術のことを申上げるに先ちまして、人間の鼻には種々な種類があると云ふことを申上げて置かなければなりませぬ、先づ人間の鼻と云ふものは種々な意味のあるものでありまして、或は之を人類學上から申しますと、鼻の形で其祖先を知ることが出來る即ち或は西洋人の子孫であるとか、或は又黄色人種即ち日本人支那人の如きものゝ子孫であるとか、或は赤色人種―露西亞あたりのやうな赤い顏の人種の子孫であるとか、或は又亞弗利加あたりのやうな黑奴の子孫であると云ふことの判斷が出來ます、それ故に人類學上に於て餘程必要な位地を占めて居り

ます、即ち人種に依つていろ〳〵鼻の形が違ふ、それを見て區別することが出來るのであります。それからモウ一つは、鼻の形は人間の性質を表はすと云ふことは昔から日本でも支那でも謂つて居る、啻に東洋で申すのみならず世界中の人が、之を大に人相學上或は骨相學上に利用して居ります即ち此人は非常に働きのある人であるとか、此人は大學者であるとか此人は勇氣に富だ人であるとか云ふやうな事を鼻の外形にて判斷することが出來ると申して居ります實に鼻の形で殆ど其人の人格若くは技能を知ることが出來ると云ふ位にまで研究して居るのであります。もう一つ殊に皆様方に必要なのは、鼻の形は人間の美を表彰する、即ち顏の形全部に對して鼻の形一つで以て殆ど醜美を極めることが出來るのであります、それで如何なる形であつたならば顏を美にするか、如何なる形であつたならば醜にするかと云ふことは、是は殆ど吾々醫學若くは生理學に關係して居る者のみならず、いろ〳〵の美術學などに關係して居る人々も皆之に苦心して研究して居ります、其れ程關係のあるものであります。



第一　直鼻

第二　猶太鼻　ハーピヒト鼻

第三　凹陷鼻

此圖は今朝急に描かせたので甚だ粗末ではありますが、先づ之に就て説明致しませうと思ひます。

即ち世界中のいろ〳〵の人類の鼻の形を區別して大約三種としてあります、第一圖は直鼻と名づけます「ゲラーデナーゼ」といつて、即ち額から鼻筋の所に鈍角を以て連續して、さうして鼻筋が眞直に通つて居る、是が即ち美といふ上に於ては一番宜いのであります、其故に美術をやる人畫工彫刻家等の如く即ち人間を拵へ其顏貌を美くしやうと云ふ場合には、どうしても眞直な形の鼻を造るのであります。第二圖は凸鼻といふので即ち鼻背の飛出た種類の鼻であります、是が中々多い、さうして此種類に屬する鼻にも又いろ〳〵の種類がありまして、纔に鼻筋が曲つて飛出て居る即ち「アードレルナーゼ」と謂つて、鷹の嘴が曲つて居るやうな鼻もあり、其次には矢張り同く鼻柱が飛出て、さうして鼻の尖端が非常に前の方に突隆して居る、是は「ハーウヒトナーゼ」と云ふので、斯う云ふのは歐羅巴の或人種が有つて居る鼻であります。それからモウ一つ、鼻柱が通つた上に倘一層下の方に曲つて飛出て、さうして鼻翼が上の方に上つて居るやうな種類、是は「ジュデンナーゼ」即ち猶太人種に屬する所の人が有つて居る鼻であります、是は歐羅巴の凡ての基督を信ずる人の眼から見て非常に侮蔑される鼻でありますが、又一方から見れば、鷹の嘴のやうに出て居る鼻は非常に精神的の發達の盛な人、即ち學問に熱心で且つ廣い、或は非常に勇氣に富んで、戰爭などに於ても決して人の後に立たない勇猛な人、或は非常に考へる力が強い、大きな著述などをすると云ふ樣な人は多く斯う云ふ鼻を有つて居る、即ち有名なる詩人ゲーテとか或はシルレルとか云ふやうな人は皆此種類の鼻を有つて居つた、それから世界で一人も知らない者はないと云ふ位な彼のナポレオン一世の如きも矢張り此鼻であつた、と云ふやうな工合に、勇氣の上に於ても、學問の上に於ても、著述の上に於ても隨分非凡な人が多くは斯う云ふ鼻を有つて居つたのであります。それから第三に屬するものは凹鼻即ち鼻柱が引込んで居る、此鼻は全體に鼻根から尖端までが短

くて低くッて、さうして割合に幅が廣い、是にも種種な種類があります、けれども多くはさう云ふ種類の鼻の尖端が上を向いて居る、さうして鼻孔が前の方に向いて居る、即ち高い方の鼻の孔は皆下を向いて居るが、低い鼻のは前から鼻孔が能く見える位になつて居ります、亞弗利加あたりの黒人の鼻は何れも低く、さうして幅が廣くッて孔が前を向いて居る歐羅巴の書物には、日本人も矢張り此低い方の鼻に屬されてありますが悉くではありません、殊に日本の貴婦人方には美い直鼻が多い樣であります。

是は自然の人種の區別でありますけれども、其外病氣のために變つて來るのがあります、即ち所謂鞍狀鼻と云ふ種類の鼻—病氣のために骨が少しなくなつて引込むと云ふのが世の中に隨分多い、是は皆樣に今お話する程の必要もありませぬが此寫眞を御覽を願ひます。(寫眞供覽)

斯樣に鼻の種類も澤山ありますが、所で只今申したやうに、美といふ上から見れば無論眞直のが宜いけれども、併し勇氣ある人或は賢い人と云ふものは高い方で、それから野蠻人即ち亞弗利加人などは引込んだ方であると云ふことは既に世人が認めて居る、そこで若し日本人の鼻が低いと云ふことを言はれたならば、既に鼻の恰好だけで世界の文明國から輕蔑されるかも知れない、故にどうか私は日本人の鼻を高くしたい、戰爭をしても負けない、學問の點に於ても敢て劣らないから此上は鼻の外形も成る丈け整へて世の中に立ちて恥しくない樣にして見たい者である況んや低い凹入せる鼻を高く眞直にして美化せしむるのは社會に於て必要事の一つであります。

所で其れをするには如何にするかと申しますと、是は決して日本で發明したのでなく、千九百年に墺地利のゼルスニーと云ふ人が、鼻の中に一種の「パラフイン」を注入して、さうしてどんな風にでも形を直すことを發明したのであります、私は其發明を凡そ七八年前から知つて居つたけれども、初め其人の報告にあつたのは、「パラフイン」を皮膚の下に注入

して、さうして色々思ふ通りの形にしやうと云ふのです、そこで初めは之を如何にして注入するかと云ふことを研究しましたが、初めの報告では、先づ「パラフィン」に溫度を與へる、溫度を與へると液體になる、液體になつた所を注射器で注射すると云ふ方法でありました、それで其當時私はさう云ふ方法を以て凡そ十人も試みましたが非常に好い成績を見たのであります、中には六七年前に注射して高くした鼻の今日でも變化なく極めて滿足して居る人もあります、所が其方法では治療が大變長く、それに溫めた儘で注入すると、場合に依りますと皮膚が火傷して赤くなる、形は好くなつたけれども色が著いて居ると云ふので、時には非難されました、さう云ふ不都合なことがあつて餘程困りましたが、所が近來私の助手の千葉及寺田の兩學士に命じて實地にやらして見ましたのは、即ち「パラフィン」を溫めずに、固い儘で注入すると云ふ方法でありますが、是が大變に巧く出來るやうになりました、此方法は日本で初めて發見したのではないが寺田學士が自分の考へにて注射器を造らし、千葉學士が多くの人に試みて漸く完全になりましたのである、其方法はどうするのかと云ひますと、斯う云ふ注射器を拵へて此中に「パラフィン」を入れる、無論入れる時分には溫めて軟くして此筒の中に入れます、さうして冷やして置くと固まつて仕舞ひます、固まつた所で此機關を廻はすと、恰度心太のやうになつて出て參ります

(實驗)

そこで此器械を以て藥を注入する時分に痛いか痛くないか、決して痛くはありませぬ、最初この皮膚のところを局所痲醉藥で知覺を失くして置いて、それから小さい針で孔を穿ける孔を穿けて置いてから斯う云ふ器械の尖端を突込んで、只今申したやうに藥を注入する、注入してから鼻の兩側を指で壓迫してさうして何でも望み通りの形を造るのです、謂はゞ指で捏ねてやるのですから幾らでも美しい鼻が出來ます、其方法で拵へた鼻は澤山ありますが之を御覧

を願ひます。（寫眞供覽）

それから此注射した後には、その藥がどうなるかと云ふ疑がありますが、或學者の說に依りますと、是は脂だから永い間には吸收されて失くなつて仕舞ふのだと云ふ疑を有つて居るやうでありますけれども併し歐羅巴の學者の說や私の敎室の二三の者に命じて標本を造らして見た結果に由りましても數十ケ月を出でぬ内に、其藥は吸收されないで皆人間の組織内に滯在して後ち追々血管や結締織が竄入して終に人間の肉と同じものになるのであります、其故に一旦入れたものは失くなるのではなく、つまり肉が殖えて來るのでありますから極めて安全な方法でございます。

只今申したやうな工合で極めて安全ではありますが併し之を濫用されては困るのであります、餘り單純な方法であるから、ちよつと傍觀に來て、直に整鼻術と云ふ廣告を新聞に出したり、電信柱に貼紙をしたりする、さう云ふ者が隨分世の中には澤山あります、斯う云ふのは危險であります、例へば針の不潔からして何か這入れば直に焮衝を起して、鼻が腫れたり或は熱を發したり、或は入れた「パラフイン」が膿に化したりして切らなければならぬことになる、さア切られたり腫れたりすると、却つて以前持つて居つた恰好の惡い鼻の方が遙に上等だと云ふやうなことになる、加之ならず不注意に施すと其藥が血管内に竄入して身體各部に飛散して場合に由ると生命を危くすることもないではない、所謂角を直して牛を殺すと云ふやうな結果に陷ります、其故に若し是を行はうと思つた人があつたならば、責任を重んじて十分に防腐的に注意してやる醫者に就てやらなければなりませぬ、事に依ると不幸の結果に陷ることがあります、兎に角濫用と云ふことを避けなければなりませぬ。

それから啻に先天的の低い鼻を高くすることが出來るのみならず、吾々の研究の結果は、病氣に因つて鼻にいろ／＼な變化の來た者を、其れをどうか完全

にしやうと云ふことをも力めたのであります、所が是も多少は成功致しました、卽ち前に申した鞍狀鼻ー鞍狀鼻と云ふのは骨がなくなつて低くなるのでありますが、其鞍狀鼻の如きも矢張り「パラフイン」を注射すれば、骨の缺損した部分を補つて眞直な鼻筋にすることが出來る、それから又不幸にして鼻が全部取れて仕舞ふ、失くなつて仕舞ふ、といふ時分には、是は單に當人の不幸のみならず、世の中に鼻のない人が徘徊して居つたら、見た方が却つて不愉快を感ずるのであります、モウさう云ふ人が社交の中に一人でも居つたならば、忽ち其社交の愉快の一部を削ぐのであります、さう云ふ者の吾々の目に觸れぬやうにすると云ふことは卽ち社會を美にすると云ふ方法である、社會を美にすると云ふことは矢張り衞生上に關係して居る、隨分御婦人方は精神上の感動に因つて身體に變化が來るものでありますから、成可く社會を美麗にすると云ふことをしなければなりませぬ、さう云ふ譯で吾々は、どうか鼻のない人に對しては鼻を造るやうなことに致したい、と云ふので色々研究したのであります。

所で甚だ斯う云ふ穢ないやうなものを出しては恐入りまするか、是は私の教室で蠟細工で造つた標本（本誌の口畫參照）でありますが、御參考までに御目に懸けます。

斯う云ふ鼻を見たら實に不愉快でございませう、是に對しては造鼻術と謂つて卽ち鼻を造るのであります、其鼻を造る方法としてはどうするかと申しますと、是は土臺からして品物がないのでございますから、「パラフイン」を注入しても決して出來ませぬ、注入する場所がない、そこで斯う云ふのには致方がありませぬから、或場合には額の肉を持つて來て造ると云ふやうなことを致しましたが、併し御承知の通り鼻と云ふものは軟骨と申して軟かい骨で出來て居るものです、そこへ額の肉などを持つて來たのではクシヤ〳〵固まつた樣なものが出來て仕舞ふ、決して本來の鼻の樣な美いものが出來ません、それで

此方法は思ひ止まつて、輓近は之を蠟細工で造ることを始めました、斯う云ふ狀態であるならば非常に美です(標本供覽本誌口繪にあり)是は前年大阪の博覽會に出したことがありますが、蠟を以て斯う云ふ鼻を造りまして、さうして皮膚に能く合ふやうな形にして、內部から彈機で持たして置くのであります、東京でも今二三人やつて居る婦人がありますが、婦人ぢやとお化裝してから連續部のところに白粉でも附けて仕舞へばさッぱり分りませぬ只場合に依つては落ちますから、其れさへ氣を著ければ誠に都合は好いのであります。

もう一つは—是は已を得ずやるのですが、若し片ッ方の鼻翼が落ちたと云ふやうな時には、是は手術で十分に出來ます、鼻翼は軟骨でありまして、この軟骨に似たものは耳でございます、耳と鼻翼とは能く似て居りますから、其鼻翼のなくなつた時には、耳の一部分を持つて來て之を鼻翼の缺損部に縫ひ附ける、耳の方は少し損をする勘定になりますが、併し耳の先が少し位なくッても美感の上に於ては些も差支がない鼻翼のないのは、誰にでも直に氣が著きます、それで此雜誌の寫眞にありますが(寫眞供覽)斯う云ふ工合で、すさうして鼻翼がなくなると呼吸が出來ませぬが、鼻翼が出來ると同時に呼吸が出來ると云ふ譯でございます。

以上の如く、兎に角鼻の美といふことに就て、卽ち鼻の作用を助けるといふことに就て、吾々の技術と云ふものは相當に迄進みましたから、若し皆樣が、世の中にさう云ふ不幸な者がありましたら、相當の責任ある醫者に就て、鼻の形を好くし或は不都合なところを直すと云ふことに御注意下さつたならば、間接には衞生上にも宜いことであらうと思ひます、今日は殿下及び貴婦人の前で甚だ不都合なお話でありますけれども、多少の御參考になることゝ思ひましたから、是だけ申上げて置くのでございます。

叢談

病氣見舞の注意

醫學士　渡邊房吉君

醫者が骨を折つて漸くに輕快に向はせた病氣を、患者の見舞ひ人が來て又之を惡くすると云ふ例は少くない。醫者が病人を治療するには少くとも一定の方針がある。此方針に從つて病氣を退治しやうとして居る。然るに病人の見舞ひ人は此方針を滅茶々々にする事がある、例令ば醫者は安靜をさせ樣としてゐるのに見舞ひ人は來て徒らに騷擾を極める。病院では醫員の許しが無ければ患者に飲食物を與へてはならぬと云ふのに、盛んに菓子や果實を病室内へ持ち込んで患者の食慾を誘惑する。患者の病氣に就ては深く秘密を守るべきのを云ひ含めて置くのに、淺はかにも患者の面前で饒舌り散らし、剩さへ同病患者で世を去つた人の物語り迄かつぎ出す。熱のある病氣などでは熱の經過を知る爲めに、わざと解熱劑を與へない事がある、然るに患者の見舞ひ人は『何故解熱劑を呉れぬだらう』など丶、陰に患者をして醫者に對する信用を減せしむる。創傷を洗つて療治するのは古い昔しの療法であるのに『洗つても呉れないのか』など丶、盛んに火をたきつける。見舞ひ人が雲の樣に病人を取り卷いても、或る場合には多少の滿足を與へるかも知れぬが、要するに害があつて益がない、殊に『見舞ひに行かない譯にも行くまい』など丶云ふてくる義理一片の見舞ひ人は成るべく病人に會はせないで、其家族が應接する樣にするがよい、見舞ひ人も亦た強ひて會ふとしないのがよい。

苟にも人の病氣を見舞ふとするには、滿腔の同情を捧ぐべき筈である、表面的の見舞ひは寧ろ爲ない方が患者の爲めに有益である。殊に或る種の病氣で

は之が爲めに患者を怒らせ、憤らせ、悲しませ、爲めに病勢を高める事が少くない。それで無くとも病人の心は樣々にひがんでゐるから、見舞ひ人の善意をも惡意に解する事がある。假令ば肺病患者などは來訪者の一擧一動を頗る注目するもので、若し來訪者が部屋の片隅にモジ〳〵して安からぬ座り樣をするか、酌んだ茶を其儘に置くか、挾んで出した菓子を口にも觸れぬ樣にすれば『我身は斯くも忌み嫌われてゐるのか』と甚く悲しむものである。故に『肺病などソー容易く傳染るものではないよ』と云ふ度量を有して、患者の前へ出ても『甲も此病氣で治癒つた、乙も此病氣であつたが近頃は餘程輕快した樣だ』など丶、何時も患者を希望の綱に取り付かせる覺悟のある人でなければ、寧ろ患者を訪問せぬがよい。戰々競々しながら見舞ひに行くのは、雙方に取つて宜しくない。故に

病氣見舞ひには同情と勇氣とが必要で、更に病人の惱んでゐる病氣に就ての一定の智識が要る。其病氣には一切霧中で、無暗の事をされては醫者の苦辛も水の泡となる。然かし素人に向つて病氣に就ての智識を養へと云ふのも隨分無理な注文であるから、苟も病人を見舞はふとする人は一應その主任醫に就き、何う云ふ病氣で、何う見舞つたら良いかと云ふ意見を聞く樣にしたらよからうと思ふ

近頃私の病院に入院してゐる患者に斯う云ふのがある。患者は鎌倉の人、隣家へ忍び込んでマンマと金品を掠め、雲を霞と逃げ行く賊を發見し、何處までもと追ひ行く所、不幸にも竹片を足の蹠に突き刺し、遂に賊を取り逃がしたはよいが、竹片に附いてゐた破傷風菌が深く肉に喰い込んだので、あわれにも破傷風と云ふ重い病氣となつた。この病氣は人の足音や、話し聲や、隙もる風や、日の光りや、すべて五官の刺戟によつて全身の肉が一齊に引きつまり頗る苦しいものである。故に病室の前へは『面會謝絶』の札を揭げて、嚴重に患者の周圍へ一切近付

く可からずと申し渡して置くのに、患者の近所合壁の人達は間がな隙がな病室へ入り込んで『氣の毒な事でしたなー』などゝ或は誤り或は歎く。これは眞に同情に溢れた所の見舞ひではあるが、患者のためには疼痛發作を起す原因となり、更に一層の苦痛を増す所以である。

病氣見舞ひの品物

も大に改良しなければなるまいと思ふ。今日一般に行はれてゐる見舞ひ物は、送られた人に取つて何等の益にもたゝぬかの感がある。甘い物を禁じられてゐる胃病患者が、山程砂糖を貰つても、徒らに誘惑の勢ひを増すばかり。腸の惡い患者へ菓子や菓實を送つた所で、患者の口へ入るべき道理がない。たとへ大抵の病氣に用ふる鷄卵の様なものでも、此處からも彼處からも貰ひ込んでは遂に腐敗なる虞れがある。

病人を見舞ふからには、成るべく病人の爲めになる様にしたい。必ずしも菓子、必ずしも砂糖、必ずしも鷄卵を送らないでよい。飲食物ならば患者の病氣に障らぬ物、若しくは患者の益になる様なものを、主任の醫者から聞き取つて送るやうにしたい。然らざれば折角に心を込めた贈り物も、却て患者の怨を買ふ様な事がある。私の病院に入院してゐる輕快しかけた腸窒扶斯の一患者は、或日見舞ひにとて來た友達が、『これは輕いから差支へは無からう』と云ひつゝ與へた「カステラ」の一片を食べたので、急に其晩から熱を出し、甚しく其經過を惡くした。醫員看護婦の不注意の責も免れないが、世間には斯る例は少からぬ事と思ふ。

生計の餘り豐かでない患者へは、知人が互に相談して牛乳は誰れ、鷄卵は誰れ、藥價は誰れと云ふ具合に互に見舞ふ様にしたらよからうと思ふ。或は力をかして家族の生業をたすけ、患者をして家族に對する後顧をさせない様にするのも、亦た病氣見舞ひの一法である。外科の病氣で下腿を切斷されたと云ふ人へは、菓子よりも砂糖よりも、擲杖と義足とを見

舞つてやれ。讀書を許されてゐる患者などへは、其人の趣好に投じて而かも病氣に障らぬを度とする書物などを送り、多人數の手に渡つて汚みた貸本を借りる危險を除てやれ。

此の如くして始めて眞の病氣見舞ひが出來る。何すれぞ昔しながらの習慣に拘泥して患者に無用の品物を送るのであらう。

運動と休養

醫學士　X　生君

○身體の運動と精神の休養とは心身健康の要訣である。運動と休養とは決して同じものでは無い、お互に日々の業務に從事して居る間には多少筋力の運動はあるが、休養と名づける程の愉快と慰樂との伴はぬことがある。終日立ち働いてゐる農夫や職人や勞働者には、時々休養を與へると云ふ必要はあるが殊更ら運動するの必要は無い。休養とは打ち疲れた精神に油をくれる意味である。而して身體の運動にも精神に休養を與へる所のものもある。

○故に平素身體を勞する人の休養と、讀書三昧に耽けつて居る學生や、四壁に圍まれた部屋の中で帳簿を整理する銀行員などの休養と異るべきは云ふ迄もない。薄暮一時間位の公園の散歩は學生や婦人たちには適するが、終日歩み暮らす職業の人には適當せず、寧ろ燈火の下に讀書する方が休養となる。

○婦人にとりて必要なのは身體の運動を兼ねた精神の休養である。家事に倦み疲れた精神に慰安と鬱散とを與へると同時に、足らず勝ちな身體の動作に多少の運動となる遊戲である。此種類の休養で最も良いのが野外の散歩である。散歩は運動にならぬと非難する人もある、が、夫れは人に由つて違ふ。平素力業のみをして居る人には成程運動にはならないでも、一家を天地としてたれ込めてのみ居らるゝ婦人諸君には之にいや增す運動は無い。

○散歩は休養にならぬと非難する人もある、が、之

れは散歩しながらも物を考へ込み、事を苦慮し歩く人の云ふ事で、全體運動及び休養の本旨を間違へて居る者の云ふ所である。『良く學び良く遊ぶ』とか、『一時專らに一事を行ひ一場須らく一物を置く可し』とか云ふ古人の誡めを辨へぬ者の言である。散歩をする時には自分を忘れなければならぬ、少く共平素の自分から離れなければならぬ、歩を運ぶに連れ變り行く周圍の事狀に身も心も奪はれつゝ、無我無心のうちに逍遙しなければならぬ。私の友達に道を歩きながら指の先きで空に字をかく者があつた、道行く人は振り返つて其おかしな手付きを見て『歩きながら迄手習ひをしてゐる』と笑つた。

○實際歩行する時は頭の氣を拔いてゐなければならぬ、鬱して居つた頭の中の血液を能く循環させなければならぬ。一人の散歩はドーモ何かを考へ込む故に成る可く二人若くは三人以上連れ立ちて、罪なき會話に耽けりつゝ歩み、或は路の邊の草花を摘み或は小川の水などを掬み、思ふ存分心を空虚にするがよい。一人で散歩する時には平素愛吟して居る詩や歌などを低吟しつゝ歩くのもよい、蝙蝠傘の柄を打ち振り〳〵歩くか、其尖端で小石などを轉ばしながら歩くのも氣を散ずる助けとなる。

○家屋内の運動は效能の少いばかりでなく、塵埃が立つて知らず識らずの間に呼吸器の中に入るから望ましく無い。遠く野外に出掛ける事が出來なければ少く共青天井の見へる日當りのよい場所で運動する。疲れ果てる迄運動するのは宜しくない。

○散歩の距離は各自の體力の強弱によりて違ふ。最初は短距離から始め、漸次體力の加はるに從つて其距離を增す。年若き女子諸君は學校への往復を人力車の厄介などに成り給はず、散歩のつもりで徒歩し給へ。

○身輕に扮裝つて競走するのも婦人に取つて誠によい運動である。此運動は啻に脚力を強壯ならしむる計りで無く、自づと深い呼吸をさせ、從て胸廓を廣め、身體の新陳代謝を盛んにする。サレド餘りに

激烈に過ぎ、長時間に亙るのは害があるとも益が無い。肺や心臟の惡い人には何れかと云ば危險である。

○○○○テニスは散歩のやうに乾燥なく、競走のやうに過劇で無く、服裝と姿勢だに正しければ婦人の運動として申し分はない。廣帶長袖と云ふ服裝では感心せぬ。常に一側のみに居つて技巧を弄するのは全身の運動に偏頗であるから、宜しく他側へも行つて平等に身體の發達をはかるが良い。

○○○○ピンポンは室内運動で、殊に食後の休養時に遊ぶに適する。ピンポン室は成る可く廣く、木の牀で、何も敷かない方が塵埃が上たないでよい。

○○○○羽根つきは日本固有の婦人の遊戯で、足も勞し手も勞し全身も勞し、殊に戸外の遊戯であつて上を仰ぎ下に伏し、呼吸を深かめ、筋力を增す所のものである。之を獨り年の始めのみに專らにしないで、一年間の遊戯としたらよからうと思ふ。

○○○○水泳は主として男子の運動であるが、水泳場の設けのある所ではサシテ危險い事も無いから、婦人も之に熟してよからう。但し月經の時と、月經の前後と、食後とには宜しくない。

○○○○自轉車は本邦婦人の服裝では似付かない、洋裝若くは女學生の樣な服裝なれば輕便である。鞍は其形狀高低共に自分に適當したものでなければならぬ。會陰部(陰部及び肛門の間)で鞍へ乘れば、直腸、肛門及び生殖器へ害を及ぼすから宜しく臀部で乘るやうにする。姿勢を正して體重の關係を調節し、力に釣り合はぬ程長い時間、而かも長距離を、過度の速度で走らぬやうにする。

○○○○カルタ遊びは新春の遊びとして到る處に行はるゝが、衛生上には餘り感服せぬ遊戯である。身體の運動としては何等の益する所がなく、其姿勢に至つては衆人の共に禁ずべき所である。深更一室の中に魔風戀風の暗に吹くのは別として、塵は上つ、煙りは滿つ、空氣は瓦斯と蒸氣と夜氣とで汚れる、精神は徒らに興奮されて頭腦は著るしく疲勞る。快樂を高尚にするものでも無く、精神の修養を助けると云ふ

ものでも無く、將た智識の上達の資益すると云ふでもなく、運動の點からも休養の點からもゼロである、只一時競爭對峙の念を募らせる計りである。吾人は賢明なる姉妹諸君に向つて、斯る無益な遊戯より遠ざかられん事を切望する。諸君の愛する子女達をも歌留多遊びの席上へは出席させないやうに願ふ。

○觀劇は婦人の休養として多少の益があるか何うか

演劇は活ける人が、聴き得る聲を以て、活ける狀態を表はすので、之を觀て樂しむのは又人間の自然である。故に演劇にして深く全きものであれば、人の指導者となり、德義の師範となり、人生の尊崇すべき教訓ともなる。然れども俳優の人格も亦大に影響がある。劇は勸善懲惡を教へ、仁義忠孝の道を説いても、之に扮する俳優が不德醜漢で所謂『沐猴に冠りする』様な眞似をしては却つて人世に虚僞を教へることゝなり、罪の種子を播き散らすものである。彼等の多くは之れ不德醜漢で、婦人を誘惑する惡魔である。觀劇がヨシヤ多少の休養となるとも、我が賢明なる婦人諸婦は成るべく之に近か寄り給ふな。殊に妙齡の女子諸君は、劇を觀ること少ければ少き程、其失ふ所の少かるべき筈である。

女子の身體（一）

三田谷　啓君

女子の身體は、其臓器とか、その作用と云ふものは率ね男子とかはらぬけれども、身體のその〳〵の部位によつて仔細に檢べて見ると、又著しく異つて居る部位がある。

概して言つて見ると、女子の身體は男子よりも小さい、即ち長さは短かく、骨も小さい、上肢即ち上膊、前膊及び手などは、男よりも細く且つ短い、然し上腿は男子よりも太いのが普通である。皮膚はきめ細かく、非常に柔である、これは、皮膚の下に脂肪が澤山に貯へられて居るからで、筋肉の發育は却つて男子よりも弱い、尚は肩の幅と、腰の幅と比較

して見ると、腰の幅は非常に廣い、これは骨盤が、男子よりも廣いからである。

一體骨骼と言ふものは、人身の保護裝置といふべきものであつて、これあるがゆへに必要なる一定の姿勢を維持して行く事が出來る、そして其要所要所には、チャンと融通の利くやうに曲げたり、伸ばしたりする仕掛けがあるから、自由の運動が出來るのである。若し此裝置がなければ、人體はまるで木や竹の如くに曲げたり、のばしたりすると、ポキンと折れてしまはねばならぬ、それのみならず、體內の大切な器械を保護する役目を掌る、ご覧なさい、腦髓や、脊髓がもし、軟い、皮膚の下に淺く存して居る樣なことがありとすれば、我々は、毎日怪我をしてそして恐ろしい障碍を受けねばならぬわけであるが幸に頭蓋骨と云ふ硬固い骨が、チャンと金城堅壁をなして、人間の爲めには大切な而も至尊な腦髓と云ふ王樣を守つて居る、これに續く百官爲政の連綿たる、一族卽ち脊髓は、これまた脊椎骨が相重り、周到に守衛をして居る、誠に造物者は、其理に適つてよく造つて居ると謂はねばならぬ。

脊柱は、脊椎骨が、珠數の樣に重り合つたもので、其上の端は頭蓋の骨と連接し頭蓋を支へる役目をもなし且つ軀幹(胴)の支持と保護とを兼ねて居る、それであるから、若し、脊椎に何か病機があつて、何れにか屈曲する樣な場合があると、これにつながつて居る處の胴は勢ひ行動を共にせなければならぬ運命に會ふのである。

然らば此脊椎は、何に支へられて居るかと言ふに、卽ち二個の脚である、此二つの脚が足場をなして居る、尙ほくはしく言ふと、大腿骨と言ふ骨が骨盤を支へ、此骨盤が脊柱と硬く連結して居るのである。諸君が手を腰の部分に當てて觸れて見ると、硬い骨盤の上緣が明にわかる。

人が直立して居る場合には、此骨盤の上の緣は、水平になつて居らずして、前方に傾いて居る。

骨盤は四つの骨から形成されて居る卽ち薦骨、尾骶

骨及び左右の無名骨これである。此骨盤の中は骨盤腔と唱へて、生殖器が安置されて居る、實に骨盤は、子孫の繁殖する宮殿を取圍む所のもので、人生の始まるのは、此骨盤の中である。されば苟も女子の身體を説くに方りては、骨盤のことを拔きにする事は勿論出來ぬ。

婦人の骨盤は、右に述べた如き關係上男子に比しては、頗る廣大で、多少其形狀も異なつて居る。

口のたしなみ

H・K君

凡そ顔面にある機關は目でも鼻でも口でも夫々其生理的の役目を務めると同時に又最も機敏に情緒の働きを表はすものであります、其なかでも目と口とは鼻に比べると心の儘に動かす事のできる程度が遙か大きいので表情の働きも自由で、從つてそれが其人の全體の容姿に取て重大なる關係を有する事は申すまでもありませぬ。目に就きては前に一寸申上げた事がありますから茲には口に就て少し許り申上げ樣と存じます。

口つきの事を申述べる前に、話の順序として胎兒に口のでき初める模樣を申上度と存じます、口の下地のでき初めるのは胎兒が母胎に宿つてから約六週間目であります、其時までは只一樣に軟な塊にすぎなかつた頭の眞中の、後で額にならふと云ふ部分から一の突起が伸て來、更に其突起を中央に挾んで左右から二對の突起ができ、都合此五つの突起が喰著合つて始めて上脣を形造るのであります、又下脣の方でも右と左と一つ宛の突起が兩方から伸て來て之が丁度眞中で喰著合ふのですが、之は上脣とは少し早目に出來上つて居るのであります、恁云ふ風に上下の脣が完全に喰著合つて夫れで始めて口腔の外側に對する境が判然と分れるのであります、處で以上七つの突起が喰付合ふとする時分に、假へば胎兒が子宮の内で普通とは違つて極て窮屈な姿勢

を取つて居るとか、或は此等の突起のうちで他の突起に較べて發育の遲いか若しくは不完全なのがあるか、或はその外に何か障碍がありますと其突起の融合の工合が完全に參らず從つて脣が一樣の滑らかな緣を取る事ができず或は一部分に深い彎ができたり又甚だしいのになると脣がずつと裂けて居る樣に見え、俗に所謂えぐち、三つ口など云ふ樣な狀態になるのであります、西洋では之を兎脣と申しますが是は最もよく其有樣を言ひ現はし得たものと考えます總て人の體に顯はれる畸形には數えきれぬ位樣々なのがありますが、此等の畸形は皆漫然と何處へでも無暗にできるものではありませぬ事は此口の例でもよくお分りに成るであらうと考へます、畸形は畢竟胎兒が胎内に在て充分な發育を妨げられた所に起るもので其箇處は常に口とか手足の指とかの樣に比較的細かい發育を要する部分に多く學問上からはその場處が大抵一定して居るのであります、又或部分の畸形に就て其例を澤山に集め之を研究致しますと人體の其部の發育の仕方を知る上に於て甚だ有力なる參考となる事が少くありませぬ。

恁云ふ風な脣の畸形は數ある人體の畸形のうちでも最も頻繁に見受ける所のものでありまして其內でも男の方が女子の方よりも少しく多い相であります、又場所も上脣に多く特に其左側の方に裂目のあるのが最も多い相であります、併し時には左右兩側に一宛の裂目を見る事もあります、又其裂けて居る程度も樣々であつて甚しいのになると鼻の下迄裂けて居り、同時に齒肉や口蓋までも眞二つに裂けて居る樣な事もあります、三つ口の小兒では大切な口の周圍に裂目がある事ですから單に其外見が惡い許でなく一寸笑つても眞白な齒並や眞紅な齒肉がにつと露はれて誠に無氣味なものであります、其上口を塞ぐ事が不充分である爲に外氣の影響を受けて食べた物や口中の液が腐敗れやすく從て斯る乳兒は始終慢性の腸胃加多兒に罹り易く、其上脣の締りが充分でないため乳を呑むのに甘く行かず、此等の原因が一

所になつて遂には乳兒の榮養があしくなり餘り長く育たぬと云ふ樣な場合が多いのであります。併し此三つ口は外見の醜さの割合には手術は頗る簡單であります、先づ其裂目の外皮を切取つて新らしい創面を拵へ、之を兩方から引き寄せてぴつたりと喰付かせ、夫れを細い絲で縫合すのであります、極小な乳兒ですと未だ感覺が鈍く痛みを感ずる事も左程でありませぬので痲睡劑を用ひないで手術を致しますから其點も亦心配には及びませぬ、夫れでは此手術は何時頃に行ふのが一番良いかと申しますと、小供の發育盛りでは創の癒える事が早う御座いますから成るべく早く手術するのがよろしくあります、西洋では五歳位がよいと云ふ說と生後三ケ月位の處が最もよいと云ふ說がありますが又一方では生後直ちに手術をするがよいと申す極端な說もあります、現に產れて五時間程經つた許で手術をして立派に成效した例もあります。併し 私 共の考では生後一箇年位な所が最も適當かと思はれます、此時節に手術をすれば生長後にはその縫合せた部分に只細い創痕が殘る許であとは綺麗に癒つて仕舞ひます。

次に口の大さでありますが是は我國でも西洋でも餘り大に過ぎたのは何となく其人の精神迄鈍く卑しい樣に思はれ、又餘り小さいのも鼻を中心に置て目と相對しては大さの釣合が取れぬので之又何となく品位の足らぬ樣に見えるものであります、昔の名人の刻まれた彫像や何かを見まするさ、兩方の目がしらの距りと鼻翼及口の橫巾とが皆等分にしてあるのが多い相でありますが、實際に於ては口は之より少許り廣いのが普通であります、獨逸のストラッツと申す學者の硏究によりますと口の橫巾は目のきれめに對して三と二の割合にあるのが一番程よい大きさだと云ふ事であります、即ち美學上の原則から見て一番釣合の美しい顏と云ふのは、左右の目がしらの間の距りが其目のきれめの長さに均しいので、更に其目に對する口の橫巾は左右の目尻の間の距りの丁度半分に當るのが最も調和のよい釣合である相です、日本

畫の方では美人を描くのに何時でも目を小さく鼻筋を細くかきますから從て口も誠に小さく描くので自然と此『美』の標準に適つて居る譯です。

次に口の形は人々により樣々ではありますが、夫れは何れも顎の骨の工合と脣との關係で色々になるのです、三つ口の事は前に一寸申上ましたが又一方では脣に何の不足がなくても、顎の骨の發育の仕樣で色々の醜い有樣となる事もあります、多くの人では下脣よりも上脣の方が少しく長くて多少下脣を掩ふのが當然であります、是は横顔で見た時に一番劃然と分ります、而して此上脣が下脣を掩ふ事の甚しいものになりますと口の角の處から下へ向けて一條の淺い溝ができる樣になります、是は小兒の時代には屢々見受けるもので亦大人でも肥つた方には折々見受ける事があります、何所ともなく愛嬌があつて特に口元が締つて見えて確かに美貌の要件の一つと考へられます、ナポレオンの肖像などには此溝が特に著しく如何にも精悍に何となく顏を引き締めて見せます、又假令上脣の長さは普通でも、上顎の骨が餘り伸び過ぎて居る時分には前の場合とは反對に、下脣の方が前に突き出て甚しいのになると猿猴の類に見る樣な有樣となります、其他上顎の骨が餘り前に出張りすぎて居るか、或は下顎の骨の發育が不充分で小さく成つて居る時には、尖つた上脣が前に突き出て俗に云鳥の嘴見た樣な口つきとなります、顎の骨が口の形に及ぼす關係はかくの如く大なるものでありますが、近來の醫學の力では顎の骨の形の惡いのも或程度迄は矯整する事ができるのですから必要の場合には一應外科又は齒科の醫者に就て御諮ねになるのがよろしいと存じます、又もとは充分發育して居た顎の骨でも骨髓炎などゝ申す骨の病氣が長く續きますと、遂には骨の萎縮を起して生れもつかぬ『鳥の口』などになる事もありますから、總て口腔の部分に病氣でもありましたならば一日も早く醫者の診察を受けて適當なる手當を御施しなさる方が安全であらうと考えます。

口は物を食べる時か話しをする時か或は欠伸をする時の外は堅く塞いで居るのが普通であります、而して塞いだ唇は略一直線になるのが通例ですがそれが愁を表はす時には其兩端が下に降り、悦びを表はす時には上の方に昂るのであります、ジユ、ズユペルベルウキス氏は顔の皺は表情の基であつて一般に其眞直なのは平靜、上に曲れば悦び下に曲れば愁の相を現すものだと申しましたが、其最もよい例は此口元の皺に就て見る事が出來るのです、口は顔に在つては目と同じ様に其形によつて斯の如く樣々の微妙な表情の運動をなしますから其周圍には又澤山の小さな所謂表情筋肉を供へて居ります、其内の或筋肉が働けば口の兩端を上に引きつり頰を膨らまして笑態を出し、同時に目尻に小皺を寄せて歡びの相を現はし、又或筋肉が働けば上唇の眞中を少し上に釣りあげ同時に口の兩端を下に曲げて不滿足の樣子を現はし、猶一歩進むと其上に鼻孔を擴張して號哭の相を現はします、其外下唇をひきさげて唇の縁を反撥せば嫌忌の相となり、口角や鼻の下をひきさげて同時に口角に並行の小皺を寄せれば人を侮る相となり、其他樣々な微細な運動によつて目の表情と相待つて言外の意味を物語るのであります。

前に申した通り口は平常は塞いで居るのが普通でありますが折には初中口を開ひて居る方を見受ける事があります、口元の締らぬのは其方の心迄締らぬ樣な氣が致して、容姿としても誠に見苦しい許でなく實は生理的でも甚しい害があるのです、鼻には鼻毛が密生して居て吸込んだ空氣の中の塵や埃を漉し取り、同時に夫を通る空氣はいくらか溫められて然後に初めて咽腔に達しますが、之が口から直接に這入るとなると冷い空氣が直接咽腔の粘膜に觸れるので始終咽喉のか、、、たーるに罹り易く、且つ塵埃を一所に吸込みますから從つて色々の呼吸器病に罹る機會が多くなる譯であります、ですから是は如何しても自然の呼吸道である鼻から呼吸をする樣にせなければなりませぬ、始終口を開て息をする方の中には、或

は注意の足らぬ爲に單に惡い癖となつた方もあるでしやうが、中には又鼻のうしろに腺様増殖と云つて腫物ができ、夫が鼻から咽頭に通ふ穴を狹くして呼吸を妨げ、夫で自然と口を開て呼吸をする樣になる方も多い樣であります、此病は單に鼻から呼吸し難い許でなく、初中腦が惡く氣が鬱いで、特に小學校時代の年頃では夫が長く續くと智識の發達にも少からぬ影響を及ぼすものでありますから、是は是非とも一日も早く醫者に就て手術をお受けなさらねばなりませぬ、中には甚しい腺様増殖がありながら少しも夫に氣附かず、何の爲に氣分が鬱ぐのかと怪しみ乍らも猶其儘にして居る方も見受ける事があります併し恁云ふ方は夜分眠る時でも口を開て寢るので從つて大きな鼾聲をかく場合が多いのです、大きな鼾は隨分興さめたもので特に御婦人には病氣の爲とは知らず此の爲に隨分苦勞をなさる方のあるのは屡々聞及ぶ所でありますが、恁云ふ折にも是非一度は醫者の診察をお受になるのがよろしいと存じます、もし夫が腺増殖の爲であつたとすれば手術せられた其晩から全く安らかに靜かに眠る事ができるのであります。

前に申した樣に脣は其形も大切でありますが、丹脣皎齒などゝも申します通り又其紅のいろも容貌の大切なる色彩の要件であります、單に美容の要件でありますのみならずまた健康の象徴であります、ですから醫者の方でも其方の健康、血行の工合を調べるには何時でも脣と眼瞼の裏とを見るのであります、色々の病氣や又身體に故障があつて貧血を起しますと、第一番に顯れるのは此脣の色の褪める事であります、夫故に脣の色を美しく仕樣と思ふには如何しても全身の榮養と健全とを計らねばなりませぬ、生れ立の小兒では脣の紅い部分は大人のよりも廣く口を閉て居ても誠に目立ちますが夫れが成長するに從ひ追々と其の幅が狹くなるものであります、併し

脣の色は何程目立つがよいからと申しましても、餘り巾が廣過ぎますと何となく厚ぼつたく口が大き

く見え、西洋でも二重脣など、申して鈍く卑しきものとしてあります、アフリカ　南アメリカ邊の黒人種の脣は皆此種類に屬するのであります、我國でも

西洋でも脣に紅を塗つてお化粧をする事は古くからある事で、日本で京紅が行はれると同様に西洋では又佛國製のポマーデロ紅と云ふのが一番廣く用られる相であります、之を附ける目的は何れも脣の色を美しくする爲でありますが、夫れは自然の色に近い範圍内に限る事で、折々見受ける様な玉蟲色になるまでも塗つたのなどは餘り見善いものとも思はれませぬ、又白粉と紅との塗様で、大な口を小さく見せ厚い脣を程よく見せるなど、總て此口元の化粧に就ては大變細い處までも研究せられて居る様でありますが夫等は改めて申上る迄もなく皆様の方で却てよく御承知の事と存じますから玆には省きます、夫では一番形の良い脣はと申しますと、上下とも紅色の巾の廣い眞中の處で始まつて夫が口の兩端へ行くに從ひ温氣な曲線を描きながら追々に狹くなつて行くのであります、且つ口の外側の皮膚と脣の紅い部分とは成るべく劃然と分れて居るのがよいとしてあります。

脣と病氣との關係は前に申した通り貧血のよい目標となる許りでなく、又或熱病などの時には小さい水疱ができる事があります、併し夫等は餘り專門的の事に亙りますから玆には申上ませぬが、只玆に一つ申上度のは脣の乾く事であります、脣の乾くのは色々な重い熱病にも來ますが其様でなくて又之から先冬になりますと、ストーブが熱過ぎたり巨燵にあたりすぎたりなどして、所謂逆上たと申して、脣がぱりぱりに乾て厚い皺ができ、遂には結痂の下から血が滲出る様な事は度々あるものであります、此時には次の處方にある藥を指頭か何かで塗ればよろしいのです。

扁桃子油	八分一ポンド
白蠟	半オンス
鯨脳油	半オンス

苦扁桃油　　十二分一ドラム
ゲラニューム油　　八分一ドラム

脣の乾くのは誠に不愉快なものである許でなく、之を久しく棄つて置ますと仕舞には脣一帶の皮膚が厚く粗くなります、其外御婦人でヒステリーや何の方はよく不絶齒で脣を嚙む癖のある方を見受けますが、之も遂には脣の美の要素である粘膜の柔婉と云ふ事を失つて仕舞ひますから充分注意をしなければなりませぬ、次には猶齒の事に就て少許お話しを致しませう。

（以下次號）

眼の傳染病

東京醫科大學　神尾驥子君

視、聽、嗅、味、觸の五つの感覺は、御存じの通り人の知識の入り口でありまして、此がなくては我々は何事も知る事の出來ない大切なものであります。中にも視覺と聽覺とは、最も必要なものでありまして、之を失つた人は其の智力も多少減退するものであります、故に人間の歴史あつてから以來三千年の長い間に、未だ嘗つて盲目の人や聾者が大學者或は大英雄になつた例はありません。それのみでなく、彼等は美しい自然の彩色を見る事が出來ません、清らかなピアノの音樂も聞く事の出來ない不幸なものであります。眼はまた、物を視る機能を持つて居るばかりでなく、美貌の中心となつて居ります。いかに口元が美しくとも、いかに色が雪の様でも、眞珠の如き眼がなかつたならば、どうして美人といはれませう、瞼の糜爛して居る人の容貌は寧ろ厭ふべきものではありますまいか。

此の大切な眼、此の美しい眞珠を奪ひ去る所の病氣はなか／＼多いものでありまして、或は親より遺傳さるゝのもありませう、或は負傷の爲めに失明するものもありませう、或は傳染病の爲めに侵はるゝのもありませう、誠に種々様々でありますが、此のトラホームと申しますのも一つの傳染病でありまして

而かも恐るべき眼病の一つであります。

トラホームとは如何なるものかと申しますに、此は瞼の裏面に粟粒又は罌粟粒の様な顆粒が澤山出來る病氣であります、其の顆粒は上下兩方の眼瞼に發生するものでありますが、中にも上眼瞼に多く出來て居ります。色が少しく黄色がゝつた灰白色でありますから、患者の眼瞼を飜轉して見ると、丁度罌粟粒の中に濡れ手をつけた様に見えます。此の顆粒は始めの程は、白血球と申しまする小さな圓形の細胞の集まつたものでありますが、時を經るに從て、圓形細胞は細長くなり遂に纖維になつてしまいます。然る時は顆粒は殆ど見えなくなりますからして、素人はよく之を全治したものと思つて放任しておきます。此れは極めて惡い事でありまして、其の爲めに後になりまして種々の症狀を起すものであります。

トラホームには急性のものと慢性のものとあります。急性のものは、傳染してから數日の間に眼が眞赤になり、眼瞼は著しく腫れ、丁度塵がはいつた様なごろ〳〵する様な痛みがあります。明るい所では目がちら〳〵して開いて居る事が出來なくなり、後になりますと物がかすんで見える様になります。此の急性のものは、醫者の療治が宜しきを得ますれば大抵三週間で全治いたしますが、治療をゆるかせにいたしますれば、次に申す所の慢性のトラホームになつて、悔ゆるも及ばぬ禍を殘します。此の急性トラホームは、日本には昔からあつたものでありまして、俗に流行眼と申して居ります。時々非常に大流行を起しますが癒るものが多いものでありますから古來輕視放任する習弊がありました、爲めに其の殘す害毒も亦決して少くはありません。

慢性のトラホームは、性質が惡いのもありまして、多くは傳染してから長い時を經て症狀を起します。其の症候は凡そ前と同じ様でありまして、涙が澤山流れ、目脂が出て爲めに眼がかすみ、顆粒が角膜、結膜を摩擦する爲めに、其の疼痛はなか〳〵激しく眼を開く事が出來ません、甚しくなりますれば遂に

失明するに至りまして、幾多の金錢を幾多の日月とを費消しても回復する事が出來ず、遂に不幸なる社會の廢物となり終るのであります。假令、辛うじて失明丈けは逃れましても、視力は永久に舊に復する事が出來ないで、一生不自由な生活を送らねばならないし、それに眼瞼はいろ〳〵の醜い形となりまして、天より賜はりし美貌も全く價なきものとなり終るのであります。

慢性トラホームの經過は三期に分けることが出來ます、其の第一期におきましては、顆粒は既に生じますが痛みは極めて輕く、唯涙と目脂が多く出る位であります、第二期に入りましてから始めてトラホームの本性を表はしてまゐります、即ち顆粒は半ば破れて、其所より膿が流れ出し、爲めに痛みは非常に甚だしく、瞼も亦糜爛し、睫毛は大抵脫落して誠に醜い有樣となります。角膜に傷が出來、又失明するのは多く此の時期であります。

第三期に入りましては、此迄、膿や分泌物が流れて居りましたのが止みますから、眼は全く乾燥し、結膜は收縮し始めます。其の結果として眼瞼は外方に飜轉しては俗にいふ赤目となり、內方に飜轉しますれば、睫毛は直接に角膜、結膜等を刺しまして、激烈なる痛みを覺えます。或は內方飜轉が起らなくとも、第二期に脫けた睫毛はまた向きを定めず發生いたしまして、角膜の方に向つたものは之を刺して同じ樣な痛みを起します。はやりめに翳の出來るのは多く此の方向の惡るい睫毛の刺戟によるものであります。

猶ほ眼瞼殊に其の邊緣が最も強く收縮する時には、丁度巾著の口をしめた時の樣に、眼は小さくなります。眼瞼が糜爛して居る人の眼は、圓く小さく見ゆるのは此の爲めであります。

兎に角、一寸見て眼瞼がたゞれて居てはつきりせず睫毛の方向が一定して居らぬ、所謂『めくらや』を見たなら之れは慢性トラホームと見ても大した間違はありません、斯樣な人を見た時には、傳染せぬ樣に

注意せねばなりません。

慢性のトラホームも其の第一期におきましては適當の治療によりて全治する事が出來ます。併し大抵の人は其の障碍が少いものでありますから放任しておくのであります。然るに第二期第三期に入りましては、いかなる醫療も全治する事が出來ません、假令トラホームは治癒しましても、常に多少の變化、障碍を殘すものであります。輕症なれば比較的よく回復いたしますが、少し重くなりますれば、瞼の醜形を殘し、或は角膜に翳を生じまして、總ての療法も左程の效果を見ず、治癒に困難致します。猶重症になりましては何年かゝつても、何千金を捨てゝも最早や致し方はありませんで、遂に哀れなる盲目となり終るのであります。

トラホームの原因は何であるか、顆粒の原因は何であるかに就ては、いろ〳〵の說がありまして、未だ何れとも確定してありません、併し此は一つの傳染病であつて、或る一種の黴菌が眼の結膜に附著し發育したものであるといふことは疑ふ餘地を有しません。其の黴菌は涙液又は膿汁の中に居りますから、其が直接間接に他人の眼に達して之を傳染するのであります。故に分泌の多い第一期及第二期は最も傳染力の盛な時でありますが、第三期の乾燥した狀態になりましては傳染力は極めて弱いのであります。

傳染します方法は非常にいろ〳〵でありますが、最も度々見るのは、黴菌が指端、手拭、盥等へつき、それから他の人の眼につくものでありまして、即ち間接に傳染するのであります。故に洗面の時、或は入浴の時に傳染するのが多いのであります、其外には衣服、夜具其他の器具も亦傳染の媒介を致します。又直接に眼から眼へうつる場合もないとは限られません。でありますから、多人數の集會して居る所が傳播を助け、また夫婦小供等の同衾も其の傳染を助けます。斯様なわけで、一家の中に一人の患者が出來ますと、全家族擧つてトラホームにかゝる事が少くないのであります。

トラホームは世界全土、至る所にある眼病でありますが殊に多いのは、東洋では埃及、亞剌比亞、支那日本等で、西洋では、和蘭、白耳義、以太利、魯西亞の一部等でありまして、文化の比較的低い所に多い樣であります。瑞西の如きには殆ど皆無であります、要するに此は一の傳染病でありますから、衞生思想の發達普及するに從つて、其國には次第に減じて行くべきものであります、でありますから、トラホームの多少は其國の文明の程度を示して居るものと申しましても過言ではないのであります。我が國にては東京醫科大學眼科病院へ來た一萬人の眼病者中、トラホーム患者が其の三分の一卽ち三千三百九十五人ありましたそうで、なか／＼多いのであります。決して我國は文明國であるとは誇れないのであります。

同じ國でも、文化の程度の進んで居る所には少く、野蠻な所には多いのでありまして、我國にては東京には比較的少いが、山林僻地には非常に澤山あります。奥深い山の中に住んで居る人に『はやりめ』にかかつた事のない人は誠に少いものでありましやう。これ田舍にはよく瞼のたゞれて居るトラホームの第三期の人を見る所であります。

猶ほ又トラホームの減少は衞生思想の發達に伴ふ事を示す事は、トラホームが上流社會に少く、下層の人民に多い事であります、上流の人は一家族、甚だしきは數家族が、一室に集まり生活し、洗面器は勿論總ての器具を共同に用ゆる所から、傳播し易いのであります。

又多勢の人が、共同生活をして居る所、例へば學校、寄宿舍、監獄、工場等にては屢〻流行します。此れも種々傳染の機會が多いからでありまして、殊に個人の注意が足らない故に、容易に傳染するのであります。若し個人として充分の衞生思想を有して居りましたなら、假令共同生活をして居ても、傳染する恐れは少いものであります。故に同じ學校生活と申しましても、トラホームの多いのは殊に小學校

でありまして、學校の程度が進むに從つて少くなります、我國では文部省の統計によりて見ますに、小學校には百人の生徒の中二十一人のトラホームを見る割合でありますが、大學生では僅かに七人の割合であります、小學教育に從事する人は此點に就て大に注意しなければならない事だらうと思ひます。

トラホームは子供にも、大人にも同じ樣にうつりますが、最も傳染し易いのは二十歳前後であります。東京醫科大學眼科で檢査しました一萬人の中

一歳から五歳迄	二三人
六歳から十歳迄	一七六人
十一歳から二十歳迄	一〇〇〇人
二十一歳から三十歳迄	九九二人
三十一歳から四十歳迄	四四三人
四十一歳から五十歳迄	四四三人
五十一歳から六十歳迄	二九六人

二十歳以上は急に少くなりまして全體で百二十八人に過ぎません。

以上申しました通り、トラホームの多い國は文化の充分でない事を示すものでありますから、一種の國辱であります、明治の我國に於ては國家の體面上からも全滅しなくてはなりません。それのみならずその害毒は患者一人に止らず、周圍の人にも迷惑を及ぼすものでありますから、是非之れを退治せなければなりません、それが醫者及び一般の人の義務であります。

然らばトラホーム退治の方法は如何にすればよいか之れは重大なる又困難なる問題であります。勿論トラホーム患者は療治しなければなりませんがそれは眼科醫のする事でありますから略しまして、一般に心得べき事項丈けを申し述べませう。

第一トラホームは赤痢、コレラ等の傳染病と同じ樣に恐るべき傳染病でありますから、其の病人は健康な人から隔離しなければなりません。それ故。學校の生徒がトラホームにかゝりましたなら、卽時昇校を停止せねばなりません。多くの小供の中に一人の

トラホーム患者が交りて居りますと、すぐ傳染して直ぐにトラホームの流行を起します。又寄宿舍でありましたなら病人は全治する迄退舍せしむべきものであります。其他監獄でも、工場でも同じ事で其の全治する迄は、健康な人と別室に起臥勞働せねばなりません。

併し家族の一人がトラホームにかゝりましたなら如何にすべきかといふに、此れは誠に困難なのであります。即ち斯かる場合には其の患者を隔離病院に入院させるのは最も理想的でありますが、日本の樣にトラホームの多い國では之を實行する事が出來ないのであります。それに患者も重症になりましてから視力障碍を起しました時には入院もいたしませうが初期には大なる障碍がありませんから、中流以下の人にては、それ位の事で職業を休む事は出來ません此が最も大なる困難であります、故に外の方法を講じなければならないのであります。

之れには家族の中で患者の用ゆる器具殊に洗面器手拭等を區別するのが最も必要であります、出來る事なら寢室も別にする事が結構であります。そして患者は勿論の事、外の家族は皆清潔を守り、殊に手、指端等を清潔にする事が大切でありまして、不潔なものや、患者に觸れた手を以て、自分の眼を擦る樣な事は大禁物であります。假令其手は清潔でありましても、眼を擦るといふ事は宜しいことでありません。眼を大切だと思ふ人は決してそんな事はなすべきものではありません。

(以下次號)

活ける家(承前)

醫學士　渡邊房吉君

(二〇)活ける家の第二の門

空氣は活ける家の維持に缺く可からざる要素で、空氣の善惡は直接に身體の健康に影響を及ぼす所のものである。故に我々は新鮮な、混合物の無い、善良い空氣をのみ呼吸すべき筈のもので、之が爲めに空

氣の入口である鼻孔と鼻腔とには、空氣の善惡を吟味すべき準備がある。惡い空氣であれば鼻竅は收縮つて鼻の孔をせばめ、成るたけ之れを入れまいとする。善い空氣であれば之に反し、成るたけ廣く鼻竅を擴げ、鼻の孔を大きくして盛んに之を歡迎する。鼻孔を入れば

無數の鼻毛

の林の如く密生してゐて、空氣の中の塵埃を濾し去つて之を淨めやうとしてゐる。鼻腔は一面に毛氈を敷き詰めた樣に紅ひ粘膜から被包れてゐるが、此中で空氣の善惡を嗅ぎわけるのは、上の方のシュナイデル氏の粘膜と云ふ所で、此處でいよ〱善い空氣と定つたものが、咽喉を通つて氣管の方へと入つて行くべき筈である。すべて

馥郁たる芳香は健康を助ける

もので、陽春三月に萠へ出づる野邊の若か草、梢の若か芽、天地自然の香は、如何ばかり人の命を蘇生させる偉大の力があるかわからぬ。春の氣に誘ひ出され、ウカ〱と野邊や山路を辿り歩るくと云ふのも、畢竟は清新の氣に渇してゐる人の命の要求である。芳香に富んだ天地の氣を、深く、深く、いや深く呼吸して、汚れた血液を清潔にし、腦に新なる勢力を與ふ可きは我々なべての務めである。

惡い香のする空氣は元とは全く反對で、人の健康を害すること甚しい。惡い臭ひがすれば自づと『鼻をつまむ』と云ふのも、『斯る臭ひは呼吸するな』と云ふ嗅覺よりの警戒である。されば我々は惡臭のある所に我慢してゐてはならぬ、速に他に之を避く可きである。然るに世間には相當の有識者でありながら所謂

臭い物に蓋をする

と云ふ愚をなす者が少くない。惡い臭ひを善い匂ひで打ち消すと云ふ間違つた考へを抱く者も頗ぶる多い。「ハンカチーフ」に「ガーヅ」の香りを薫らして居れば、却て惡臭のある空氣を嗅ぎ分ける事が出來ず結句健康には有害となる。防臭劑を撒り播いたから

と云つて、只比較的善い匂ひで惡い臭ひを打ち消したと云ふだけで、決して惡臭を放つべき物質の全く取り除けられたと云ふでは無い。されば少しく衞生の道に通曉せらるゝ方々は、麝香を捨て、ローツを捨て、偏に鼻の嗅覺に信頼し、清新なる空氣をのみ呼吸する樣につとめられたい。何れの殺菌劑が有力であれ、何の防腐劑が效能があれ新鮮なる空氣中の酸素に比しては遠く〳〵及ばないものである。

嗅覺に感じられて香を發する物はすべて瓦斯體である、此瓦斯體中惡臭を放つものは絶えず人の健康を害はんと付けねらつてゐる。然るに空氣は其間に入り、平和の媒介者として人體を保護してゐる。久しく密閉た部屋には不良瓦斯が堆積て惡臭鼻をつく、戸を開き窻を上げれば空氣は逸早くも進入して不良瓦斯を追ひ出し、室内を清潔にする。多くの瓦斯は空氣よりも輕いから天井の近くへ窻を開けて置けば此處から逃げる、然かしながら炭素瓦斯は空氣よりも重いから牀の近くに孔を設けて其處から追ひ出す樣にする

嗅覺は疲勞し易い

ものである、故に長く一つ香を嗅いでゐる事が出來ぬ。惡臭に對して常に警戒を加へなければ、嗅覺も遂に之に馴れて最早や匂ひの善惡を識別する事の出來ぬ樣になる。戸障子を閉め切つた一室に一夜をあかし、翌朝になつて跳ね起きても、室内の空氣がサシテ惡いとは思はぬ。然かし一と足戸外に出て、獨逸の諺の所謂『口に黄金を啣へてゐる』と云ふ朝の空氣を胸一杯吸つて、再び室に戻つて來れば、茲に始めて嗅覺も『室内の空氣の惡い堪へ難いものであつた』と曉り、『何故斯る惡い空氣を夜一夜吸つて居つたのか』と驚く樣になる。衣服を洗ひ、手足を洗つた洗濯水はマサカ飮料水には適すまい。夜一夜吸ふては呼き、吸ふては呼いた密閉つた一室内の空氣は、たとへば手足や衣服を洗つた洗濯水で、之を平氣で呼吸して居るのは宛然

平氣で洗濯水を飮む

のである。健康に有害なのは云ふ迄もない。サリとて夜間は息を殺して、一切呼吸をせぬと云ふ譯にも行かぬ。故に適度に戸障子を開けて、新鮮なる空氣の自在に出入する樣にする。冷へ切つた夜の空氣が日中の暖かいのに劣るのは勿論であるが、洗濯水に比すべき腐つた空氣を吸ふよりは優つてゐる。況して悉く戸障子を開放つて夜氣を充分吹き込ませよと云ふので無い、室の片隅に少しの隙を設けて置けば内外空氣の交換は充分であると云ふのである。

芳香に對しても亦嗅覺は鈍るもので、三分間も鼻を離さず嗅いでゐれば、花の香もバルサムの匂ひも一切わからなくなる。これは人の

嗅ぐ力には限りがある

のを示すもので、之を過度に働かしても無益である。數分間休息させて再び之を嗅がせる樣にすれば、嗅覺も元の通り鋭敏になる。勿論嗅覺の鋭敏さ加減は人に由つて違ふもので、種々の化學試驗でもわからぬ程のものを、鼻で嗅ぎわける人もある。自分の室に他人が入つたか何うかを嗅ぎわける人もある。病人と健康な人とを嗅ぎ分ける人もある。日本人と西洋人とを嗅ぎ分ける人もある。或る西洋の學者は熱心に香ひの事を研究したが、其人の嗅覺は頗る鋭敏で

大便の香ひで其人の性狀を識別した

と云ふ事である。多くの人は大に之を笑つたが、而かし實際大便の香ひは人に由つて多少の相違はあるもので、殊に神經系統の病氣などでは大便の香ひにも變化を來すと云ふ事である。獵犬などは頗る嗅覺が鋭敏で、其香ひで鳥の落ちて居る所を知り、其足跡を嗅いで主人の行衞を搜しあてる。

魚は水中にあつて食物を嗅ぎ求める。勤勉なる蟻は遠方まで食をあさりに行くものであるが、ツイゾ自分の歸り路を忘れぬと云ふのは、其香ひで嗅ぎ〳〵歸るからである。蝸牛は白い粘ば〳〵した路をつくりながら出掛け、歸り路は其香ひを辿り〳〵來る、故に水を以てよく此路を洗ひ流せば蝸牛は途方に暮

れて仕舞ふ。動物の嗅覺は斯くも發達してゐるが、人では夫れが甚しく退化してゐる。電氣で嗅神經を刺戟すれば電氣の樣な香ひがする。『割れる程

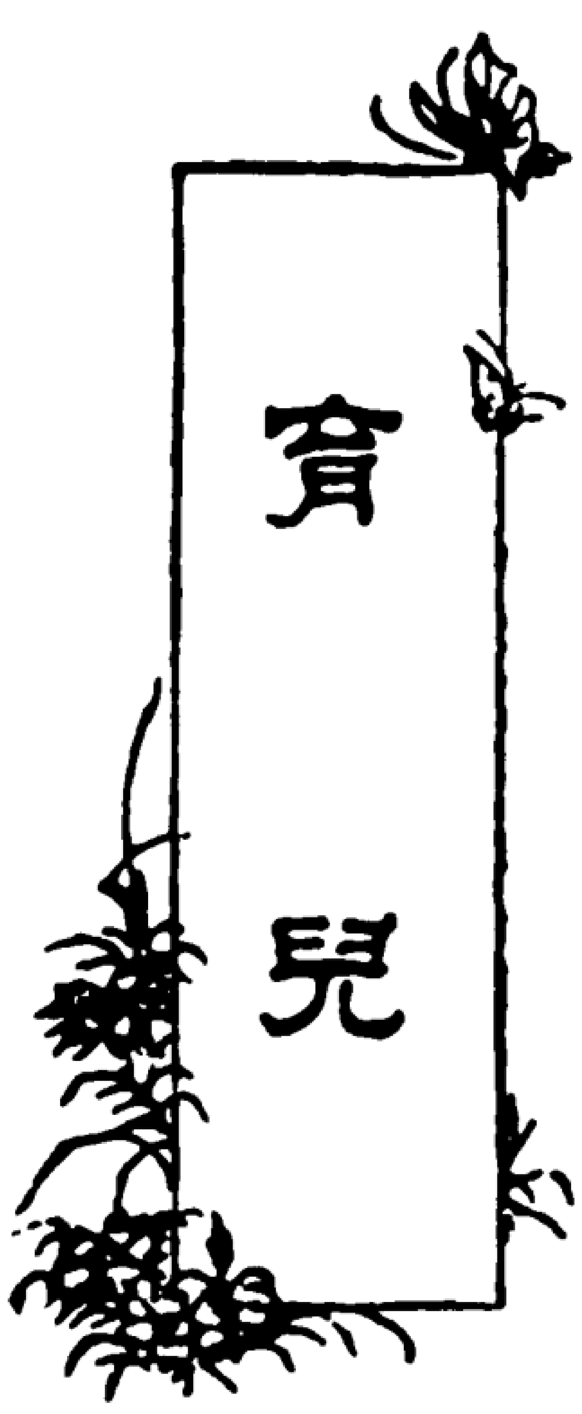
頭を打てばキナ臭ひ

香ひがする』とは多くの人の云ふ所であるが、實際機械的の刺戟も一種の香ひを起すらしい。嗅覺は僅に空氣の善惡を識別する活ける家の門衛である計りで無く、活ける家の主人たる可き精神に快樂と慰藉とを供給する忠僕である、嗅覺が食慾を助けるのは、吾人が既に前號で述べ盡くした通りである。が、

嗅覺は又能く花の言葉を解し之を
主人に通譯する

谿間の百合の私語や、野邊の菫花の物語りは、何れも鼻から通譯される。秋の薄の枯れ〳〵の歎き、利き鎌で刈り入れられた枯れ草の臨終の悲しき調べなども、鼻からで無くて何處から聞くことが出來やうたとひ左右の耳は聾して天地の妙へなる音樂を聴き取る事が出來ないでも、たとひ兩眼は盲目となつて蒼空の偉觀も地上の奇變も之を知るに由なくても、未だ嗅覺にして健全であればサマデ望みを失ふに當らぬ。空氣のうちの諸現象は、香ひとなり、歌となつて、或は有害な瓦斯の危險より之を救ひ、或は草木の言葉を傳へて遙に之を慰める。

盲目者の嗅覺が常人より鋭敏であると云ふのは、大に意味のある所である。



育兒瑣談（其一）

H、S、君

英雄も、偉人も、豪傑も、一度は呱々の聲をあげて、此世に生れ、襁褓生活の經過を踏んで來たの

で、何人と雖も、一足飛びに大人になつたものは無い。

古の人も、今の人も、またこの後の人も、又斯くの如くにして成人するのである。

小兒を完全に育てることは、非常に貴い責任で、それ丈け又六ヶ敷務めである。

苟くも人の子に親たるの身、殊に母たるものは、育兒の一通りは、無論、辨へて居る必要がある。精神上にも、肉體上にも、……然し六ヶ敷丈けそれ丈け研究を積み且つ經驗を重ねばならぬ。

人生れて他人の家に嫁し、聖き家庭のうちにありて、こどもを完全に養育する程嬉しい、喜ばしいそして尊いことが、又と此世にあるだらふか、理に適ひ、法に合した、養育の方法を實行すべきためには、絶えず周到なる注意が要る。

題して育兒瑣談と言ふ、決して斬新な事も無く、卓越した論でもない、けれども平凡なるが爲めに必要が少いと言ふ論理は無い、兎角普汎の事で行はれない場合が少くはない。何事も實行せねば利益は得られぬ。予はこの主意を以て、此稿を起したのである。

別段に秩序を立てず、思ひ浮ぶ儘を書き綴るその事柄が聊かにても、益することとならば、それで滿足此上もない次第である。

（一）小兒期の事

こどもが母の體内にある時を稱して胎兒と云ひ、已にして、此世の中に生れて參ると、初生兒と名ける此初生兒と呼ばるるのも、ほんの僅かばかりの間で即ち分娩の特徴がまだ殘つて居る間（例へば產瘤と言つて、分娩の際、母の產道に壓せられて生ずる頭の腫起、臍帶の殘りなどのある間）、此間が初生兒で丁度二三週間である。

それから後には、何と呼ぶかと言ふと、哺乳兒又は乳兒と唱へる、これから日を經るに從ひ、腦の機能も發達し、智慧も出來て、身體は、脂肪が增し、福福しくなつて來る、七八ヶ月又は九ヶ月にもなると

乳齒が生える(普通は下顎の門齒二枚)、此乳兒又は哺乳兒は、九ケ月乃至一ケ年の間を稱するので、それが終ると幼年期に移る。

幼年期は、乳齒の時期にして、一年の終りから、乳齒が永久齒に換る時、即ち七歳のころまでである。此時代に於ける、心身の發達は、驚くべき程早い、時としては、此幼年期を二分して、第一幼年期及第二幼年期とする。

第一幼年期は、二乃至三歳、晩れたるものにありては、四歳位までを含み、此時代にありては、起つこと、歩むこと、咀嚼すること、談話をすること等を學び、且つ模擬の精神が大に發達する。

第二年幼期、これは五六歳又は七歳位までのものを言ふ。

それに次ぎては、少年期で、(男は童兒、女は少女)即ち學齡期とも稱すべき時であつて、十四五歳(童兒は十六歳、少女は十四歳位)のころまで續く。

次ぎに來るは、青年期にして身體の發育が終るまでを名けるのである、氣候や、人種によつても多少の差はあるが、先づ男子は二十四歳、女子は、二十歳のころまでもある。

以上の時期を總括して未熟期と唱へ、これより後の時期を成人期又は成熟期と名ける、この成熟期にありても、またいろ／＼の細かき分類があるけれどもこゝには之を言はぬ。

以上の分類は、素より絕對的のものでは無い、晝と夜と移りかわりが、劃然と分つことが出來ぬのと一般である、が然し大體に於て、右の如く區別して置くのは、便利となることが多いからである。

(以下次號)

衛生雜話（一）

H、S、君

（一）百歲の老牧師の話

英國のホルンカッスル市にトーマス、ロードと言ふ牧師があるが、此人は、英國中で最も年老ひたる牧師で、本年春四月二十二日に、百歲の誕生を祝したとのことである。

ロード氏は、年二十六歲にして、牧師の聖職についたのであるが、その以前には嘗て靴屋の職人であつたこともある。

ロード氏が若年の頃は、體格も弱く、牧師の職に初めて就いたころは、迚も永くは生きられまいと言つた人もある位である。

ロード氏に長壽の祕訣を聞くと、氏は七十年の間、禁酒を斷行し、すべて規則正しい生活を續け、決して氣をあせつたことは無い、食物は一日に二回肉食をするが、鹽を多く用ひて外の「ソース」類を使は無いと言ふ。

聞いて見れば、別に天外から墮ち來る程の斬新な說でも何でも無いけれども、多年の間、此簡單な規則が實行された結果によるものと考へねばならぬ。

氏は尙ほ書物と勉强が、自分の朋友で、四十四年間の牧會中稀に休暇を得ざりしと言ふ、而して氏は第五千回目の說教をホルンカッスルの教會でやつたとのことで、千人以上の聽集の前で、同じ日に二回も說教をするとは、何たる强健なことであらふ。

人間は始より此世に働きに生れて來たので、一生涯を無意味に過すべき筈のものではない、生を愛して力一ぱいに働かねばならぬ、何をするにも精力なしに出來るものは無い、大なる事業は大なる勤勉を要する。大なる勤勉は、强健なる心身を要する。

我等は此活きたる人の衛生法に鑑み、弱きものは、強くなり、強きものは、より強くなつて、そしてより多くの、よりよき仕事を續けねばならぬ。

（以下次號）

看護の事（承前）

醫學士　河野衛君述

呼吸器の病氣

の事の御話しに移りましよう、是れから段々と氣候が寒くなり、空氣が乾燥して來ますから、小兒の呼吸器の病も、中々に多くはなります。

呼吸器の病といふと色々ありまして、上の方から申すと、鼻加多兒—鼻汁が多く出てクシヤミをしたり或は、全く鼻の穴が塞がつて了つて、乳を飲むに非常な困難を生じて來ます、鼻加多兒の時分には、熱の出る事があります、或は、熱が出ないで濟む事もあります、此鼻加多兒が起ると、容易に、咽喉の方に進んで、咽喉加多兒を起し、咳嗽を發し、熱が出て、不機嫌となり、咳嗽のある時毎に乳を吐く事もあります、それから下の方に進むと、喉頭に同しく加多兒を發し、大變に苦しい咳嗽をします、それから、遂には、氣管枝炎を起し、進んでは、肺炎となるものであります、何れの場合でも熱が出て、咳嗽を發するものであります、凡て此呼吸器に加多兒症を發するのは、呼吸器の粘膜が、刺戟を受けるが爲めに起るのであるまして、最も屢々あるのは、寒冷の刺戟であります、暖い室内にばかり居た者が突然外氣の冷いのに當ると、加多兒症を發し易いのであります、凡て小兒の呼吸器といふものは、非常に弱いもので、少しの事でも、障りになり易く、殊に、寒い時は勿論の事、時候の變り目抔には、ヨク此呼吸器の疾病に侵され易うありますから、餘程注意を拂はなければなりませぬ、一體此咽喉炎とか氣管枝加多兒とかいふ病は、大人にも無論あるものでありますけれ共、小兒には、殊に屢々見るものでありま

して、此外に、小兒には、「ヂフテリー」といふ恐ろしい病がヨクありますから、呼吸器の病には、餘程大事を取らねといけませぬ、小兒の呼吸器病は、大人のとは、趣を異にして居ります、其一例を擧げて見ると、大人では鼻風を引いて、鼻汁が出たり、或は、鼻の中の穴が塞がつても、直接に身體に危險を來すやうな事は先づ無いと謂つても良い位であるけれ共、小兒殊に、哺乳兒に此病が起ると、大に心配てあります、何故かと言ふに、乳を飲む時には、口から呼吸は全く出來ない、此時は、鼻で呼吸を營むのであるけれ共、鼻の中が狹くなつたり、或は全く塞がつて了つて居る場合には、此鼻呼吸といふものを營む事が出來なくなる、或は非常に困難になつて來る、その爲め、夜中抔に、突然と呼吸が止つて、窒息して了ふ事があります、それから、ヨシドウカコウカ呼吸は出來ても、乳の飲み方が充分に出來ない所から、身體の榮養が自然に衰へる事になる、それから又、鼻が出て來るものであるから、鼻風であるといふので、放置して居る間に、其實「ヂフテリー」である事もあります、小兒の鼻の「ヂフテリー」といふものは、性質の良くないものであります、斯ういふ風に、色々な危險のあるものであります、それから、氣管枝炎、肺炎となると、病の症狀が一層烈しくなりまして、咳嗽が盛に出て、呼吸が急がしく、發熱して來て、小兒の榮養は、大變に、衰へて來ます、肺臟は、御承知の通り、身體の必要なる酸素を吸ふて、不用の炭酸を出す機關であります、今此肺に炎症を起した場合には、此瓦斯交換の大切なる働きが妨げられますから、身體に取つて、ドレ程有害で、危險のあるものであるかは、明かな事でありましよう。

それで上に述べましたやうな病に罹つた場合には、如何に手當をするかといふに、清潔な暖い室に小兒を寢かして置いて、室内では、可成塵埃の立たないやうに注意し、無用な人の出入を禁じ、臥牀を暖かくして、此内に寢かすのであります、室内の空氣は乾燥

せぬ方が良いのでありますからして、鐵瓶に四時湯でもわかして置いて、湯氣を立たせるのが宜しうあります、塵埃が立つと、此れを吸ひますから、呼吸器の粘膜を刺戟するから、いけないのであります、それから、呼吸器の病に罹つて居る場合には、湯に入れてはいけませぬ、普通の入浴をすると、健康な時でも、體溫が少し失はれるものでありますから、呼吸器の病のある時は、湯に入れてはいけませぬ、（醫師が治療の目的で、一定の方法の下に湯に入れる事がありますけれ共、此れは、普通の入浴とは、仕方が違つて居りますから、此れと混同してはいけませぬ）殊に、病の治り掛けに向いた時分に、湯に入れ、それが爲めに、又後戻りをする事は、吾々の日常見る所であります、それ故に、常に醫師の意見を聞いた上で、入浴し、決して、治り切らぬ時に入浴させてはいけませぬ、それから、食餌に注意し、決して、過食しないやう、乳を餘計に與へた、お腹を害するやうな事があつてはなりませぬ、呼吸器の病のある時分に、腸胃に障りが出來ては、いけませぬから、常に此點に注意し、便通は必らず毎日あるやうにしなければなりませぬ、便秘して居ると、大層苦しいものでありますからして、灌腸をして、必らず便通のあるやうにしなくてはなりませぬ、哺乳兒は、咳嗽のある時は、ヨク吐くものでありますから、アマリ烈しく咳嗽をする時には、乳を飲ませぬやうにし、可成咳嗽のない靜かな時に飲ませるやうにするのであります、それから、靜かな室に寢かして置く事は、上に申しましたが、此時も下痢症の時と同じ事で、決して、抱いて歩いてはなりませぬ、抱くと、體溫が平均に保たれませぬ上に、身體動搖の爲めに、咳嗽を發し、小兒に取りては、大層苦しい事になりますから、少々泣いて、八ケ間敷くても抱いてはいけませぬ、暫くすれば、直に、慣れて來るものであります、鼻加多兒の時には、鼻汁が出て始めの内は、薄い所謂鼻水であるけれ共、後には段段と、濃くなりまして、固まつて、鼻孔を塞いて了

ふやうな事もあります、それ故に、殊に夜分注意せぬと、危険を起す事があります、それで、絶へず此鼻の分泌物を拭ひ去つて、鼻の中を空氣の通り易いやうにするのであります、又鼻汁の固まつたものは叮嚀に之を取り去らなければなりませぬ、乳を飲ませる時には、別して注意し鼻呼吸の苦しい時は之れを妨げぬやうにしなければなりませぬ、鼻加多兒の時も咽喉炎の時も亦肺炎、氣管枝炎の時にも、凡て醫藥の外に、吸入といふものをやるのであります、此吸入は、甚だ大した效力のあるものでありまして咽喉に痰が支へて、がらがらいふて居る時にも、吸入を掛けると、大層樂になるものであります、吸入といふのは、藥液をば、霧のやうに飛散させて、之れを呼吸する法を指すのであります、此吸入といふ方法は、呼吸器病を治す場合に必要缺くべからざるものでありますから、誰でも、其器械を家に備へて置く方が宜しうあります、用法も簡單でありますから、誰にでも、出來ぬ事はありませぬ、通常人のヨク買ひ求めて使つて居る吸入器は、多くは、安價な小形のものでありますが、ドーモ早く損じ易いので困ります、それで主に、霧狀になつて、藥液の出る管の口が塞がり易いからであります、又小さな管の事でありますから、內部が錆易いのであります、それ故に、出來る事なら、大形のもの丶方が何時迄も用ひられて、容易に障りの出來る事もありませぬから、大層徳用であります、此大形のものは、藥液の出る方の管は、大きな硝子管でありますから、中々內部が塞がるやうな氣遣いは無く、取り外しが自由ですから、掃除も出來又液の霧狀に飛散する勢も強うありますから、ヨク吸入の目的に適つて居りますそれ故に、世の人々は、此永久に使用の出來る丈夫な大形の吸入器を備へて置かれん事を私は希望するのであります、さて其吸入の藥方、一回の量、一晝夜の回數は、固より病勢に依つて加減すべきものでありますから、其場合〳〵に醫師の指圖を經なければなりませぬ、吸入を掛ける時には、大きな油紙を

頸の所から身體上部一面に掛け、先づ頸に西洋手拭を卷き、其上から、件の油紙をヨク掛けて、水分が衣服の中に流れ込まぬやうにし、頭へも、手拭を掛け、顏丈けを出して、そうして、件の吸入器の液が霧狀に出るのを口の所に持つて行くのです、此時注意しなければならぬ事は、湯を入れて、煮沸する部分であります、此部に水を入れる時に、決して一杯入れてはなりませぬ、必らず半分か、七分目位にして置くのです、何故かと言ふに、一杯入れてあると下から煮立てた時に、直接に此熱湯が飛び出して、小兒の顏に、火傷を蒙むらす事がありますから、此所に深く注意し、決して水を一杯入れぬやうにしなければなりませぬ、此吸入を行ふ時に、小兒は泣きますが、ソレは泣いても決して、差支はありませぬから、ドシドシ吸入させねばなりませぬ、此吸入といふものは、決して、小兒に取つて、苦しいものではありませぬ、後で大層心持の良いものであります、咳嗽も遙に輕くなるものでありますから、必らず此吸入を勵行しなければなりませぬ、又吸入器の先端はアナガチ小兒の口の方に一直線に向かなくとも差支ありませぬ、小兒が始めの間は、イヤがつて、顏を振りますけれ共、オヨソ口の方向に向つて居れば此霧を呼吸する事になりますから、吸入器を色々と動かす必要はありませぬ、兎に角口の四邊に霧が行けば宜しいのであります。

氣管枝加多兒、肺炎の時には、高い熱が出ますが、段々と、此高い熱も取れ、咳も大層輕うなつて、氣分も良く、食慾も出て來て、恢復期に入りますが此時に注意を怠つてはなりませぬ、此時に室を出て、外に連れ出したり、或は、湯に入れたり、凡て看護の上に手落ちがあると、スグ熱が出て來て、中々容易に取り切れないやうになります、恢復期に向ふと小兒の元氣が善くなるもので、熱も無くなつて居る所から、最早病は、治つたものと思ふ者が多うあります、併し、外觀健康になつた樣に見えても、此時まだ胸部の病は、全く取り切れて居ない事があり

ます、又治り切つて居ても、再發と謂つて、病が後戻りする事がありますから、餘程注意しなければなりませぬ、又病の經過中には色々の出來事のあるもので、例へば、一方の肺炎があつたとすると、其れが治つて、熱が取れ、大層良くなりかけたかと思つて居る中に、急に又熱が出て、重くなる事がある、是れは、一方は治つて、更に又他の方の肺に肺炎を起したのであります、それ故に、一旦熱は取れても中々安心は出來ませぬから、充分に看護の方に手を盡さなければなりませぬ、恢復期の時にやり損ふと病氣が長引いて、容易に治らぬやうな事に成つて參ります、毎時申し上げます通り、小兒の病の時に、別して看護といふ事が大切であります、只だ藥劑ばかりで治るものと心得て、看護の仕方に頓著せず、妄に醫者のやり方が惡い、藥が利かぬ抔と不平を述べるのは、譯の分らぬ話しといふものであります。

氣管枝加多兒や肺炎に罹ると、同時に胃腸の方に障りの起るものがあります、下痢したり、時としては便秘したり、それから、熱のある時は、食慾の惡しくなる事が多いのであります、それ故に、此方へも注意を向けなければなりませぬ、便秘して居るときには、必らず浣腸をして、通じのあるやうにし、下痢あれば必らず、放棄せずして、相當の手當を施し妄に菓子、果物抔を與へないやうにし、牛乳、重湯の如きものばかりを與へて置く方が宜しうあります食慾の無い時に、手を換へ、品を換へて、種々のものを與へてはいけませぬ、食慾が出て來ても、間のものは、可成與へない方針にし、牛乳、重湯、粥の如き主なる食物を充分に與へるのが宜しうあります牛乳よりも、ドーしても、小兒は、菓子のやうなものを好みまして、多食する結果定まつて居る食品たる牛乳粥抔を取らぬやうになり易いもので、身體の榮養が衰へて來ますから、此點に注意を拂はなくてはなりませぬ、是れで氣管枝加多兒、肺炎の御話しは了りとしまして、是れから

百日咳

の事を申し述べましよう、百日咳といふ病は、中々治り難くて、經過の極めて長い病であります、されば、小兒の身體榮養の衰へる事も固より著しうありますから、長い間の看護は、大層必要な譯であります、百日咳は、御承知の通り、甚だ苦しい咳を發する一の傳染病でありまして、其咳をする模様が如何にも慘烈で、あわれな狀態を呈して來ます、然るに從來此百日咳といふ病氣は、ドーも治療のむづかしいもので、今日でも、確かに利くといふ藥は、まだ發見せられて居りませぬ、藥の效力が迅速に顯はれて來ませぬ、それ故に、可成此苦しい咳を輕くしてやり、出來る限り苦しみを少くする事をしなければなりませぬ、先づ衣服の事でありますが、此衣服は季節に應じたものを衣せて、帶や紐抔を無暗に堅くしめて、身體を緊縛するやうな事があつてはなりませぬ、咳をする時分には、胸部の運動が自由に出來るやうになつて居なくては、大層苦しいものでありますから、衣服の著方は、可成寛つたりさしてなくてはなりませぬ、小供を背負ふのは、我國の習慣でありますが、此百日咳に罹つて居る子供を背負ふと咳をする時に、甚だ不自由で、苦しうありますからして、背負ふのは良くありませぬ。

百日咳の時には、色々な合併症と謂つて、或は、氣管枝加多兒や肺炎抔呼吸器の病を發するものでありまして、無論此時は、熱も出て來ます、此時は、清潔で、空氣の流通の良い、明るい室に起臥させるのでありますが、もし、咳ばかりで、他の合併症の無い場合には、そうして、天氣が良くて、風の無い暖い日には、可成戸外に連れて出で、新鮮な空氣を呼吸させるのが宜しうあります、併し他の小兒と一緒に遊ばす事は、避けなければなりませぬ、百日咳は、其傳染力が誠に甚しうありまして、容易に、他の小兒に感染しますから、此傳染といふ事を忘れてはなりませぬ。

それから、熱も無く、他の合併症も無い時分には、湯に入れても差支は無いが、湯に入つた後は、一體

に體溫の俘はれ易いものであつて、容易に感冒に犯されますから、此感冒を豫防する事を忘れてはなりませぬ、それには、湯に入つた後は、外出をしないやう、暖かく身體を包み、牀に入れるのが宜しうあります、その他幼い小兒であれば、室の中で、日々腰湯をしてやつて、タヾレの出來ぬやうに、身體を清潔にしてやらなくてはなりませぬ、或は、身體の弱い小兒であれば、日々乾いた手拭で、身體を摩擦して、强壯にする事を計るのが肝要であります。

食物は、流動食の方が宜しい、堅いものを食べると消化が困難で、隨て、咳嗽の發作を促す事になりますから、可成流動體に近いものを選むのであります、それには、粥、牛乳、ソップのやうなもの、或は、牛乳で煮た粥抔も宜しい、其他刺戟の强いもの辛いもの、すつぱいもの、香料のやうなものは與へない方が宜しうあります、斯ういふやうな刺戟性の品を與へると、それが爲めに、容易に咳嗽發作を招くからであります、それから、大食さゝぬのが肝要であります、胃が膨滿して居ると、是れ亦咳嗽の出るのを促がす元となり、咳の時に嘔吐したり、大層苦しむ事になりますから、少量宛を度々に與へるといふやり方が宜しいのであります、食物は、咳の終つた時に與へるのであります、それから、餘りに冷いものや、熱いものを飲んだり、食つたりすると、此れが刺戟となつて、容易に苦しい咳嗽を發して來ますから、そんなものを與へてはいけませぬ、百日咳は、經過が永いが爲めに、隨つて、身體の榮養も著しく衰へて來ますから、常に滋養强壯の食餌を與へる事に心掛けなければなりませぬ、それから、治つた後に結核に罹り易うなりますから、是れも忘れてはなりませぬ、普通小供にヨク有る病氣だ抔と謂つて、平氣で居ないで、何所迄も細心な注意を拂ふのが肝要であります。

それから、精神の感動がある時に、即ち、喜んだり怒つたり驚いたり抔する時は、直に咳嗽を發して來ますから、常に靜平にしてあるやうに心掛けなけれ

ばなりませぬ、又五官の刺戟のあつた時分―急に大きな音響を聞くとか、又は閃光あるものを見るとかいふやうな刺戟があると、是亦咳嗽發作を促す事になりますから、常に、驚かさぬやうに大事にしなければなりませぬ、一家に二人も百日咳の病人が出た時は、可成別けて置く方が宜しい、一緒に一室に起臥せしむるのは宜しうありませぬ、百日咳の患者は他の子供が咳嗽するのを目撃すると、是れが刺戟となつて、自分も其時咳嗽をするやうになるものであります。

百日咳の時は、氣管枝炎、肺炎といふやうな合併症を發し易いものでありますが、此百日咳に合併した肺炎、氣管枝炎は、性質が惡しくて、治り方も早くない所から、其間に身體が衰へて、往々不幸な轉歸を取る場合がありますから、始めの內から、注意して居なくてはなりませぬ、百日咳は、何れの年齡の小兒にも來ますが、就中幼稚な小兒の程經過が惡うありまして、危險であります、それから、百日咳患者の使つた、器具、喀痰、布片抔には嚴重に消毒を施さなければなりませぬ、凡て斯ういふ事は、醫者の指圖に依つて、行ふのであります、以上で、百日咳の話しは止めに致しまして、此次には、實扶的里亞の事を御話し申しましよう。

（以下次號）



質疑

問● 貴會益〻御隆盛賀し奉り候陳れば私事本年五十一歲に相成り候へども每年寒氣に向ふと冷性にて小用頻りに出で〻困り居り申候一晝夜にて殆んど十七八回も便所に參り候次第につき先年も或る醫師に診察を請ひ候處身體には別段異狀も之れなく由に候へども念のため尿の試驗を致され候ひしも腎臟病の徵效も之れなき趣きにて成るべく身體を溫める樣に心掛けよとの事につき日常養生を致

し居り候へども昨今の寒さにて又復尿意頻りに催ふし候て矢張り日夜十數回も之れあり候に就ては右療法及び攝生法を何卒御教示下され度ひたすら御願ひ申上げ候

十一月五日　東京　上野澄子

答● 老人の尿意頻數と云ふ事は大切な徵候の一でありまして多くは腎臓の病例之ば萎縮腎などは老人に最も屢ゝ來る疾病であります併し既に醫師に診療を受け且つ檢尿に因りても變化がないとの事なれば最早腎臓病ではないと云ふ事は推定されるのです、されば其原因はと云へば頗る多端で例之ば腎臓より尿道に至る經路に障害のある場合卽ち輸尿管、膀胱、尿道等の疾病亦尿其もの丶病何れも尿意をして頻數ならしめ、亦氣溫の泌尿に及ぼす影響は多大でありまして、御承知の通り血壓と泌尿との關係の密なる事は生理學上必要の事であります、卽ち血壓高ければ尿量增加し低ければ之に反する事です、そこで冬期寒氣が強くなると云ふと皮膚表面にある血管が收縮して血液は主として內部に多量となり、從つて血壓が高まり玆に始めて尿の分泌が旺盛になります彼の飲酒後に於ける通尿頻りなるは此理に他ありませぬ、漸次氣候が暖かに向ふ時は身體內外の溫度稍ゝ一定して尿量も丁度良ひ具合ひとなるのはお互に經驗のある事です然しながら夏期になる時は今度は冬期の反對で表在血管は擴張し血量に富みます、故に身體內部の血壓は漸次低降り從つて尿量が減少します、是れ皮膚表面の血管が擴張すれば汗腺皮脂腺の分泌が盛んになり體內の液性分は多く是れより奪ひ去られるからであります由來是等の變化は少壯ものよりも老人期に多いのです、以上述來つたのは只其梗概であつて其他に所謂精神上、神經性亦生活狀態等原因となるべきものが種々ありますが是等は亦後日に讓りまして是れから治療法を少しく述べやうと思ひます、さて素人療法として是れと云ふ適法はありませぬ亦其原因が明かならねば

治療法も困難です然し何れより來るとするも攝生法が一番大切であります、即ち飲酒を禁じ過劇の勞働を排し刺戟性の食物は可成禁じ心身の安靜に努むる事最も肝要の事と思はれます、次で必要なるは身體を常に一定の溫度内に置く事で殊に前條に述べし如く其原因が氣溫の變動より來たるものに於て然るのです故に每年冬期に至らんとする比には早く溫暖の地に轉療して可成生溫食餌を執り一方衣類を重ねて體溫の放散を防ぐと共に攝生に努められなば所謂自然療法の效顯るべし。



雜報

○衞生狀態と傳染病

過般傳染病流行地を視察して此程歸京したる內務省衞生局の安東防疫事務官の談に依れば本年の一般衞生狀態は概して良好なりしが只傳染病流行の爲に隨分困惑したる地方あり其重なるものを擧れば先づ門司市にして八月以來虎列剌發生し同市のみにても百三四十名の患者を出すに至り其の餘波として福岡縣下は勿論、山口、廣島、長崎の諸縣にまで病毒を傳播せるも幸に當局が熱心に豫防消毒に努力し居れるを以て大なる流行はなからむ歟今初發以來去月二十一日迄の患者は福岡縣百九十八名、山口縣五十七名廣島縣七名、長崎縣十七名にして尙現に發生しつゝあるも門司及び下關等に於ては專ら其病毒を船舶に傳播せしめざる樣努め居れるを以て前年に比し廣く各地に蔓延するに至らざるは幸なり又香川縣に於ても前年より赤痢病漸次增發の狀況ありしが本年に至り頓に暴發して六千八百餘名の患者を算し全縣下中病毒の侵入せざる町村は僅に十七八位にして實に異常の慘狀を呈したり次は兵庫縣下淡路の由良町にして八月以來ペスト患者續發し一時は容易ならざる狀勢を呈し遂に二十餘名の患者を出すに至りしが縣及

び町の當局者一同寢食を忘れ非常手段を採り之が豫防消毒に努力し居るを以て早晩撲滅するに至るならん顧に近時衞生設備の完成と共に豫防消毒の方法敏活に赴き赤痢、虎列剌、ペスト等の蔓延を防制するの效果顯著にして之を數年前に比すれば流行程度は甚だ縮少したるを認む又吾々には直接の關係なきも本年の牛疫は餘程激しく各府縣に害毒を波及したる趣きなるが詳細の統計は未だ見ざる所なり云々と語られたり

○赤十字社平時救護所

赤十字社東京支部の計畫に係る平時救護所は愈々京橋區南紺屋町二十一番地に設置する事となり係員は主事一名、醫師二名、書記二名、看護婦六名、看護人四名を置き自動車を備付け置きて劇場其他人込みの場所には係員を派出し臨機應急の救護を爲す筈にて既に家屋借入の手續も濟みたれば不日開始の運びに至るべしと

○賣藥取締規則改正案

內務省衞生局に於て調査中なる同改正案は從來の取締規則を根本的に改正し秘密藥及び處方藥等の區別を明瞭にしたる上有害は素より全然無害のものも許可せざるべく多少にても效驗ある配劑に非らざれば發賣せしめざる方針なる由にて追て調査結了次第一應中央衞生會の審議に附したる上本期議會に提出すべき筈なりと云ふ

○トラホーム豫防法

內務省は同法を制定せんとせしも調査の結果各地方長官の施設に一任して之れが制定は見合せとしたる由なるが各地方長官は學校等に於ける同病豫防に就き縣令を以て取締法を設けんとするも往々地方自治團殊に縣市會等の反對を受け思ふに任せぬこと多きより一層中央政府に於て全國同一なる同病豫防法を制定されたしと希望し來るもの多きより內務省にては目下再考中の由なり

○癩療養所と內務省

目黑癩療養所設置に關し淡、高木の二代議士が過日

平田内相を訪問して設置反對の陳情をなしたる趣は既報の如くなるが内務當局者の意見は該療養所設置反對に付て公益上重大なる理由の存せざる限りは單に住民の感情に依り一官廳の施設に係る公益事業に對し敢て干涉をなさゞるべしと云へば今後東京府にして自ら之が移轉をなさゞる限りは現位地の變更を命ずるが如き事は萬々無かるべしと云ふ

○ペスト菌檢鏡所

ペスト菌檢鏡所を警視廳より芝警察署構内に移さんとするに就ては芝區民の反對あれども適當の場所なきより一時同署構内に移し警視廳舍の改築工事落成を俟ち更に從前の如く同構内に設置する事になるべしと

○新宿の虎列剌

内藤新宿南町の虎列剌は本月十日までに十一名に達せしが尙蔓延するやも知れずと新宿署にては是まで杉田、野澤、福田の三檢疫醫を從事せしめしを十一日より吉高赤坂檢疫醫をはじめ麹町四谷の二署よりも檢疫醫を應援せしめ六名にて各戶の糞便の細菌檢査及び健康と病的檢査を勵行さるゝ由

○陸軍の混砂米排斥實施

一昨年以來繼續して世に喧傳せられつゝありし混砂米の排斥改良問題は爾來内務省衛生局にても一の研究事業として尙未だ懸案中にあり警視廳の如きも前衛生檢査所長たりし池口博士をして熱心に研究せしめたる事は當時既に世に傳へられし處なるが其後該問題は近く本年に入り陸軍省醫務局の問題ともなり混砂米に對する是非の議論頗る盛となり結局一般の軍需糧米は出來得る限り無砂米を採用することゝなりしも日本現時の狀態は未だ完全なる無砂精白機の發明普及し居らざる結果として直に多量の無砂米を得ること不可能なるより止むなく在來の混砂米に甘んじ時機を見て改良するより外なかりしに本年春頃より無砂搗精白機として彼の淸水式須藤式の如きもの現はれ一般の白米商等競ふて之を購入し混砂米の排斥を企て改良に著手したる折柄玆に先月上旬に

至り小倉の第十二師團に於ては率先して混砂米の排斥を企て改良に對する上申書と共に改良精米機の購入及試驗を東京糧秣廠に依賴し來りたれば陸軍當局者も幵を好機會として一般の發明機械に向て準備的試驗をなすに決し先月中旬大谷陸軍屬を主任に任命し目下淸水式、アイデル式、須藤式等の各新式機械を取寄せ日々多量の玄米を以て盛んに比較研究中なるが今大谷屬の語る處によれば各機械共多少の長短あり卽ち淸水式は完全に無砂を以て精白の實を擧げ得るも時間に於て費す處多く又須藤式は無砂と云ふ點に疑問あれど時間に得る處ある如き得失あるが元來無砂の精白を得るが目的なるが上に經濟上多大の利益あれば比較的搗き減り少なき淸水式は今一層の工夫を凝らし採用するに至るべし云々と云ひ尙軍隊に於ては遲くとも來年度より實施に著手せられべく實施の上は在來の精米上納者に多大の打擊を與ふべしとの事なるが尙ほ一日も早く實施されたきものなり

○看護婦學の修業に就いて

東京市神田駿河臺の東洋內科醫院にて看病學の養成をせられつゝ在るは明治三十年一月以來であつて年年凡そ十名乃至二十名の講習生を教育して居らるゝ而して入學時期は每年十二月上旬と定められて居る當院にては學術を教授する外に品性の陶冶に充分注意して居らるゝから當院を卒業したものは一般に醫師及び官衙より賞揚せられて居る併し夫は三年間の學習及び義務勤務を果した後ちに世間へ出たものの事である彼の惡友に誘惑せられて中途退學の上世間に出たものとは大に其趣きを異にして居る入學の時には健康診斷を受け身體の虛弱なる者或は傳染性疾病を有する所のものは無論除かれる學說試驗は割合に簡易である併し規則書類の講讀、往復文、加減乘除位ゐは達者に出來ねばならぬ、講師は醫學士高田畊安、醫學士松田三彌、醫學得業士林止、醫學得業士峯間玄琢の諸氏であつて每週四五日各一二時間づゝ學說教授があり特に高田氏は曾て多年大學に於

て看病學の講師を勤め看病婦養成に熟練して居られる抑も女子にして看病法を修めて置く事は生涯獨立生活を營むに適當の職業であるのみならず亦賢母良妻として家庭に働くにも甚だ必要である入學の年齡は十八歳以上であるが三十五歳迄は採用せらるゝ事に成つて居るから少女は勿論寡婦などにして博愛慈善を行ふ能力を具へたいと思ふ人は相當の健康及び學力を有すれば直ちに入學する事が出來る貸費を受けても學年の初より起算して三ケ年で既に義務を果し自由に出入する事が出來る由なり

○妙齡の女醫

本年文部省の醫術開業試驗に應じたる志望者は實に千四百餘名(内女子八十名)の多きに上り、而かも其中學說、實地共總て及第して立派に醫師となることを得たもの僅かに三人に過ぎざりしが、其三人の中に本年漸く二十歳なる妙齡の女醫學生あることそ珍らしけれ、此名譽ある婦人は廣島縣賀茂郡西高屋村字溝口農富原一の四女富原ゆく子と云ひ、十七歳の時私立廣島高等女學校を卒業して女醫にならんと思ひ立ち直に上京して牛込區市ケ谷河田町東京女醫學校寄宿舍に入り爾來四年間一生懸命になつて勉强した結果の效空しからず去る九月同校の前後期を卒業するや直に開業試驗に應じて學說實地共見事に好成績を得て他の二人の男學生と共に芽出度及第者の一人に數へらるゝに至りしは洵に得難き才媛と云ふべきなり

○肺病恐るゝに足らず

未發に豫防し得られ
既發に治癒し得らる

世に肺結核ほど恐ろしく忌はしき病はあらず一たび之れに罹られたるものは不治の疾病と心得て悲觀し落膽し果ては自暴自棄に陥ゐるものなきにあらずして一人此病に侵さるゝときは其家庭は忽ち悲慘極まる光景を現ずるに至る然るに此に最も喜ぶべきは此恐ろしき肺結核を豫防し及び治癒し得べき新療法を發見せられたること是れなり夙に内科の大家として

醫界に令名ある高田畊安氏は肺結核の療法に就いて多年熱心に研究する所ありし結果最も簡便にして最も有效なる療法を發見せり其は同氏の『口籠吸入法』と命名せるものにして或る揮發性の藥物を點じたる棉花を口籠若くは竹筒などに插入して吸入するものなるが此藥物は消毒及び殺菌の效力最も偉大なるを以て一たび此藥物に濾過されたる空氣は忽ち消毒せられ、殺菌せられて清淨無菌となること猶ほ水道の水の濾過せられて無菌となると同じ理なり故に空氣中には驚くべき多量の細菌を含有すれども此藥物に濾過されたる空氣は聊かも人體に害を與ふることなく隨つて肺結核の如き疾病は確實に豫防し得らるゝなり而して此藥物の氣狀となりて喉頭より肺部深く吸入せらるゝときは其觸るゝ所、過ぐる所皆消毒殺菌の作用を充分に發揮するを以て他の内服法若くは注射法に比すれば其效力の迅速にして且つ優越なること論を待たず故に常に此『口籠吸入法』を行ふときは肺結核、肺壞疽、肺炎を始め總ての呼吸器病を未發に豫防し及び既發に治癒し得るは高田氏の久しき實驗を經て確實なり

此の如く『口籠吸入法』は肺結核其他の疾病を豫防し及び治癒し得るものたれば此發見の爲めに天下國家に貢獻する所大なるべきは固より論を待たず隨つて之れが普及の法を講ずるは目下の最大急務なるが若し此藥物をパイプに插入して吸入することとせば休憩中は勿論作業中と雖も殆んど煙草と同じく自由自在に吸飮せらるべくして發病者は勿論一般健康者の利便少からざるべく隨つて之を普及するに於て最も效力あるべし我社此意見を高田氏に語るや同氏は大に贊成せられ代理部の事業として世に普及せんことを慫慂せられたれば我社は其筋の允許を受け「オテム」新療法と稱して公益の爲に之れが頒布の勞を取ることとなせり

「オテム」新療法は如上の大效あるが故に既に肺結核肺壞疽、肺炎其他總ての呼吸器病に罹れるもの及び其家族は勿論之れに罹らざる一般健康者と雖も之れ

を行はんこと必要なり特に常に患者に接近する醫師看護婦、塵埃多き屋内に於て執業する學校教師、學生、官吏、職工等は常に之れを使用すること最も必要なり而して此藥物は芳香あり興奮の作用ありて之れを煙草の代用となすときは精神爽快活潑にして惰氣を生せず爲めに經濟上にも勉學上にも非常の利益あるべし幸ひに報知社代理部より發表したれば試用し玉へかし。(報知新聞)

○芝衛生會紀念會

芝區衛生會にては、去月二十八日創立二十五年紀念會を兼ねて、松山會長二十五年間在職慰勞會を芝公園三縁亭に於て開かれたり、恰かも宜し此の日會長の古稀の誕辰に當れりとかや先づ餘興として貞水の(立志傳、三河屋甚兵衛)講談、柳適太夫の(源平布引の瀧、松浪琵琶の段)義太夫、美蝶の眞粉細工飴細工、手品等の餘興ありたる後、會長松山棟庵翁創立二十五年紀念會を開く旨を告げ、且つ會の既往、現在、將來に說き及ぼし、二十五年の星霜を經と雖も、恰も人生に比すれば、身體發育の完成したるに過ぎずして、所謂社會に活動すべき潜勢力を養ひたる者なれば、諸君と協力して益々社會に貢獻せんことを希望すと述べ、次で曲木副會長は松山會長の同會に對する功勞を述べ、次きに細野幹事は總會の決議に依り、松山會長に紀念品を呈する事となり、福祿壽の三字を(益田某氏)彫刻したる三組銀杯を贈呈し、倘ほ若林書記十四年間勤續したる功により又同氏にも紀念品を贈り、次で北里博士は起て余は芝區衛生會の一會員なり、余の芝區に住居せしは十六年前なりき、當時余は一寒生にして自己の研究せし科學に就て大に社會に益せんとしたりしが社會に多く容れられざりき、故福澤翁に商る、福澤翁又松山翁に協る、玆に初て傳染病研究所なるものを起すに至る、翁は啻に余の恩人なるのみならず、芝區否な我帝國衛生の先覺者にして、國家の恩人なりと稱するも敢て憚らず、二十五年間決して短しと云ふべからず而かも終始一貫して芝區の衛生事業に盡

瘁せらる、同會の今日あらしめたる實に翁の、力與りて大なりと謂ふべし、と述べ次で東京市衛生試驗所長遠山博士、東京醫師會芝支部長高木喜寛氏及び中井常次郎氏の祝詞演說ありたる後、松山會長の謝詞あり、一同庭前に於て紀念撮影し、終りて開宴小松崎氏の挨拶、松山氏の答辭あり、猶ほ同會長最近の寫眞一葉宛を配布したり、一同起立し芝衛生會の萬歲、松山家の萬歲を三唱して、歡聲の裡に散會せしは八時半頃なりき、當日の來賓は、區名譽職員高木、北里、遠山の三博士其他百二十有餘名なりと云ふ

大日本婦人衛生會記事

○本會十一月例會

本月七日(土曜日)午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校樓上に於て例會を開き、本會總裁東伏見宮妃周子殿下は御用掛宮岡慶子を從へられ、御洋裝麗はしく御臺臨あらせられ暫く御休憩の上副會長濱尾夫人の御先導にて會場に成らせらるゝや、一同立て最敬禮をなし、夫れより田村學士は『萎縮腎に就て』てふ題にて腎臟病及び萎縮腎等の最も恐るべき所以を最と懇切に述べられ、又富士川ドクトルは前回よりの續き『身體及び其保護』の題下の其一節に近年獨逸國の定說には人類の壽命は平均八十歲を以て規準とす、然れども各國に於ける國風氣候等の關係もあれば獨逸の規準を以て一般の例とはなすべからず、體軀長大なるものは夭折する樣に言囃すものあり、之に反しその短矮なるものゝ長壽を保つ如く言ふものあり、されど是は所詮一種の根據なき妄說に過ぎず、現に體軀長大にして豪飲を事とし、或は日々珈琲四十杯を飲み、而かもそが存生上に些の故障を感ずることなく、身體常に強健にして心氣爽快なるものあり、又世上往々にして長壽は食物の攝調にありなど言ふものあれど、是れ其謬見の最も甚だしきものなり、體軀の大小は人類の壽命の上に毫も

關せざるもの丶如し、男女の壽命に就ては男性は出産後夭折するもの多く、女性には十二三歳頃より二十歳に至る期間に於て其死亡率多きを見る、されば世に女兒の育て易く、男兒の育て難きを言ふものあるは蓋し之が爲めのみ、斯く言へばとて直ちに女性が男性より強しとは言ふ可からず、生理學的に自然に來る現象に外ならず。其他男女の精力、生活の場所、體格と壽命とに就て例の如く趣味ある講話ありて閉會を告ぐ、夫れより殿下には別室に御少憩の後午後四時過ぐる頃御機嫌麗はして御歸邸遊ばされたり、當日の聽講者は無慮二百餘名にて殆んど立錐の地なく頗る盛會なりし、又出席せられし役員は左の如くなりしと

鳩山　春子　　緒方　悦子　　濱尾　作子　　田村喜代子
山本多稔子　　岡田　德子　　山口　貞子　　長谷川仲子
片山　龜子　　宮本　樂子　　松平　芳子　　岸　灝子
宮下　咲子　　三浦　敎子　　羽田三精子　　岩下ゆか子
高木　鉎子の諸氏（出席順）

○本會入會者

○事務所申込

●神田區猿樂町二　通常會員　伊澤みね子

○伊藤氏紹介

●赤坂區青山南町四ノ二三　通常會員　高山正代子

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○轉居

●府下西大久保四一五へ　久總喜代子
●相州小田原十字町三ノ五五へ　淸水作江子
●大阪市東區岡山町三六一へ　田中鎌子
●府下南品川四ノ一九四へ　南條榮子
●淸國北京日本小學校內へ　勅使河原君惠子
●京都府伏見町字等安へ　伴よし子
●佐世保市石坂町三十一へ　衣川うた子
●岐阜市神田町七丁目へ　小山田かち子
●牛込區北山伏町三十四へ　古川のぶ子
●靑山北町四ノ一〇六へ　櫻山節瀬子
●牛込區簞笥町六へ　馬屋原ひさ子
●静岡縣藤枝町小花方へ　岩淵なほ子
●臺灣總督府陸軍經理部衛戍病院へ　山梨盛子
●對馬國竹敷要塞部官舍へ　向山靜子

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必ずや衛生と相俟て而る後始めて全きを得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に準じて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に設く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖ども徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之れを贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づつ之を分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす但會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●例會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講話演説又は之に關した實驗等をなし爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる款項の他其の必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし、兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會員は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名竝に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁す

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條　本支會は私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條　毎月壹回（第二日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は每月一回講話會を開き每年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ケ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章
第三號　メッキ製拾武錢、送費六錢

○第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章
第一號
七拾錢（黒塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なども御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所所在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目卅二番地
私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地　齋藤壽之丞

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十一年十一月十六日印刷
明治四十一年十一月二十日發行（毎月一回二十日發行）
印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　合資會社